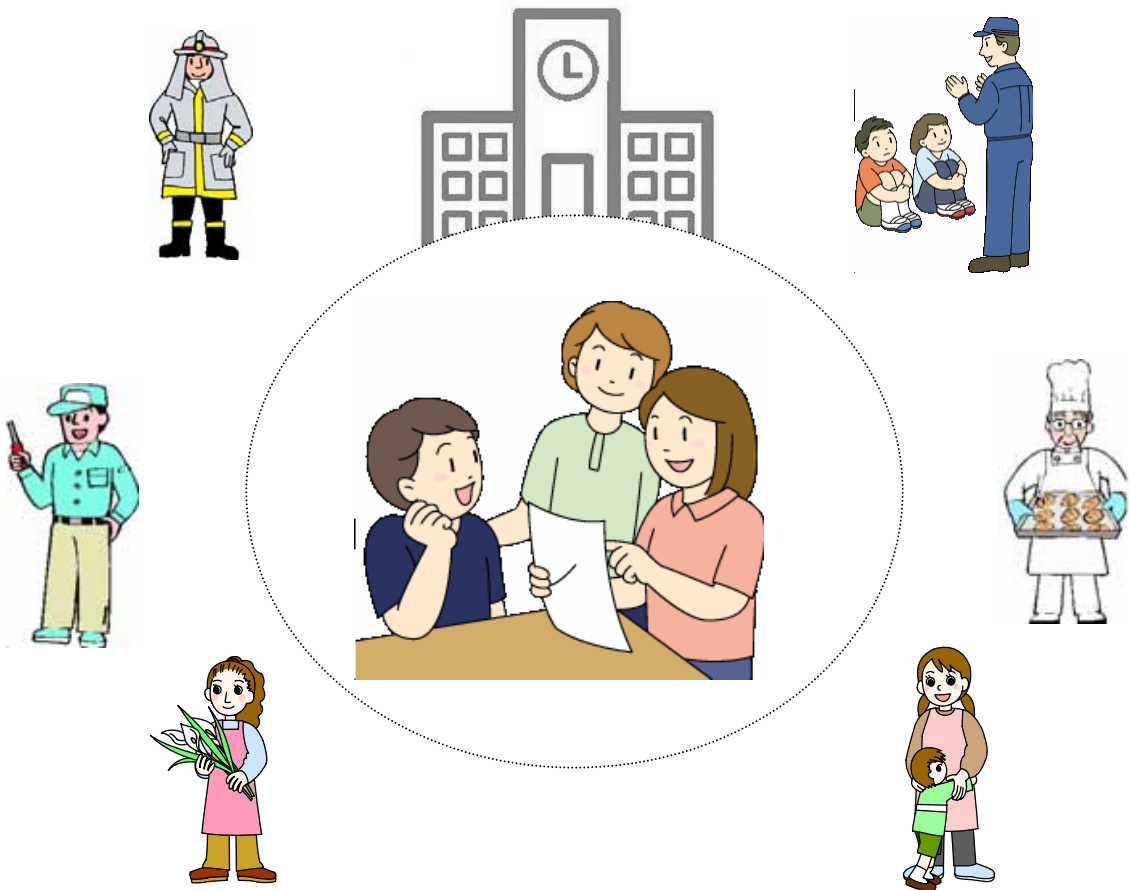


「生きる力」を育むキャリア教育

- 小学校における理解と実践のためのQ & A -



栃木県総合教育センター

平成19年3月

はじめに

近年の産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等を背景として、就職・進学を問わず、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化しています。このような環境にあっても、様々な課題に柔軟にたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるよう、「生きる力」を育む教育の推進が求められています。

平成16年1月に取りまとめられた「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」(文部科学省)では、キャリア教育を「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てる教育」ととらえています。そして、小・中・高の連携を意識し、学校教育全体を通して、組織的、系統的にキャリア教育を実践することを求めています。

本県では、「とちぎ教育振興ビジョン(二期計画)」に基づき、キャリア教育推進に関する様々な施策が展開されており、平成19年3月には、「キャリア教育推進の手引き(小学校編)」が発行されました。

総合教育センターにおいても、平成17年度より、キャリア教育に関する調査研究に取り組んでおり、平成18年3月に、「キャリア教育の視点を生かした進路指導の工夫・改善に関する参考資料(中学校・高等学校編)」を、県内の高等学校と中学校に配布しました。本冊子は、その続編として、小学校でキャリア教育を実践するに当たっての基本となる考え方や方策についてまとめたものです。各学校での校内研修や実践の参考資料としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子の作成に当たり、ご指導、ご助言をいただいた上越教育大学大学院臨床コース 三村隆男助教授に、深く感謝申し上げます。

平成19年3月

栃木県総合教育センター所長

五味田 謙一

目次

本冊子の活用に当たって

第1章 キャリア教育について理解しましょう 理論編	・・・	1
Q 1 キャリア教育とはどのようなものですか？	・・・	2
Q 2 キャリア教育で育成を目指す能力や態度には、 どのようなものがありますか？	・・・	4
Q 3 なぜ、小学校段階からキャリア教育に取り組む必要が あるのですか？	・・・	6
Q 4 小学校のキャリア教育では、どのようなことを重視し ているのですか？	・・・	8
Q 5 小学校でキャリア教育を進める際には、どのようなこ とに留意するとよいのですか？	・・・	10
Q 6 児童へのかかわり方や支援については、どのようなこ とに留意するとよいのですか？	・・・	12
第2章 キャリア教育を実践しましょう 実践編 1	・・・	15
Q 7 小学校では、どのようなことからキャリア教育を始めれば よいのですか？	・・・	16
教科の学習とキャリア教育との関連	・・・	18
【事例 1 国語科】 「十さいを祝おう」 ・ 友達との学び合いを通して、コミュニケーション能力を高める	・・・	20
【事例 2 社会科】 「地域の安全を守る仕事」 ・ 見学やインタビューを通して、働く人や社会への関心を高める	・・・	22
【事例 3 理科】 「電池の働きを調べよう」 ・ 電気の性質や働きについて学習し、生活を支える科学技術への 関心を高める	・・・	24
【事例 4 生活科】 「かぞくだいすき」 ・ 学校と家庭をつないだ学習を通して、働くことの喜びを実感し、 役割の大切さに気付く	・・・	26
【事例 5 音楽科】 「様子を思いうかべてアレンジしよう」 ・ グループで原曲をアレンジする活動を通して、自他のよさや 表現の多様性に気付く	・・・	29
【事例 6 体育科】 「けんこうな生活」 ・ 自分の生活を振り返り、健康によい生活の仕方を理解する	・・・	32

道徳教育とキャリア教育との関連	・・・	34
【事例 7 道徳の時間】「希望をもって」	・・・	36
・ 総合単元的な道徳学習を通して、目標の実現を目指す道徳的実践力を高める		
【事例 8 日常的な生活場面】「働くことはだれのため」	・・・	38
・ 日常生活における役割の経験を振り返り、働くことへの意識を高める		
特別活動とキャリア教育との関連	・・・	40
【事例 9 児童会活動】「運動会の成果を生活に生かそう」	・・・	42
・ 運動会に関する活動を振り返り、体験を通して学んだことを学習や生活につなげる		
【事例 10 学級活動】「自分を見つめよう」	・・・	44
・ 友達との交流を通して、自己理解を深め、自己の可能性を広げる		
総合的な学習の時間とキャリア教育との関連	・・・	47
【事例 11 総合的な学習の時間】「地域で働く人から学ぼう」	・・・	49
・ 地域の人とのかかわりを通して、実社会に触れ、働くことの喜びや意味について考える		
第3章 学校全体で取り組みましょう 実践編 2	・・・	53
Q 8 学校全体での取組にしていくためには、どのようにすればよいのですか？	・・・	54
Q 9 キャリア教育の計画を作成する場合には、どのように立案すればよいのですか？	・・・	60
Q 10 家庭や地域とどのように連携してキャリア教育に取り組んでいくとよいのですか？	・・・	66
キャリア教育に関する資料	・・・	71

本冊子の活用にあたって



本冊子は、小学校におけるキャリア教育についての理解と各学校における実践を支援することを目的として作成したものです。

キャリア教育は、全く新しいことを始めるのではなく、取組の視点を変えることによって、今までの教育活動をとらえ直そうとするものです。各学校においては、教育活動全体を通じて児童の「生きる力」をはぐくむ教育が行われており、様々な教育活動の中には、キャリア教育の視点からも評価すべき実践が数多く見られます。そうした取組を確認するとともに、「将来の自立のために必要な態度や能力を発達段階に応じて身に付けさせる」という視点で教育課程を見直すことによって、目の前の子どもの成長を長期的で全体的なものとしてとらえ、各教科等の関連や単元のつながり、年間あるいは学年を超えた指導の継続性など、教育活動相互のつながりを、より意識して教育活動に当たることができます。

本冊子は、第1章の「理論編」と、第2章及び第3章の「実践編」とで構成しました。第1章「理論編」では、キャリア教育を実践するにあたっておさえておきたい基本的な考え方について、Q & Aで整理しました。第2章「実践編1」では、授業でどのように取り組むことができるのかということについて、第3章「実践編2」では、学校全体でどのように推進していくのかということについて、それぞれ事例を示しながら解説しています。

本冊子の活用にあたっては、校内研修等において「理論編」を読んで全体的な理解を図ることもできます。また、担任あるいはキャリア教育推進の担当として、「実践編」を読んで、実際の取組を具体的に考える手がかりにすることもできるでしょう。先生方が、キャリア教育の実践の第一歩を踏み出すための参考資料としていただければ幸いです。

第1章

キャリア教育について理解しましょう

理論編

キャリア教育についての基本的な考え方を理解する

この章では、キャリア教育の基本的な考え方をまとめました。

キャリア教育とは何か、小学校ではどのようなことが重要なのかなどの疑問があるとき、あるいは、教職員同士の共通理解を図りたいというときの参考にしてください。

Q1

キャリア教育とはどのようなものですか？

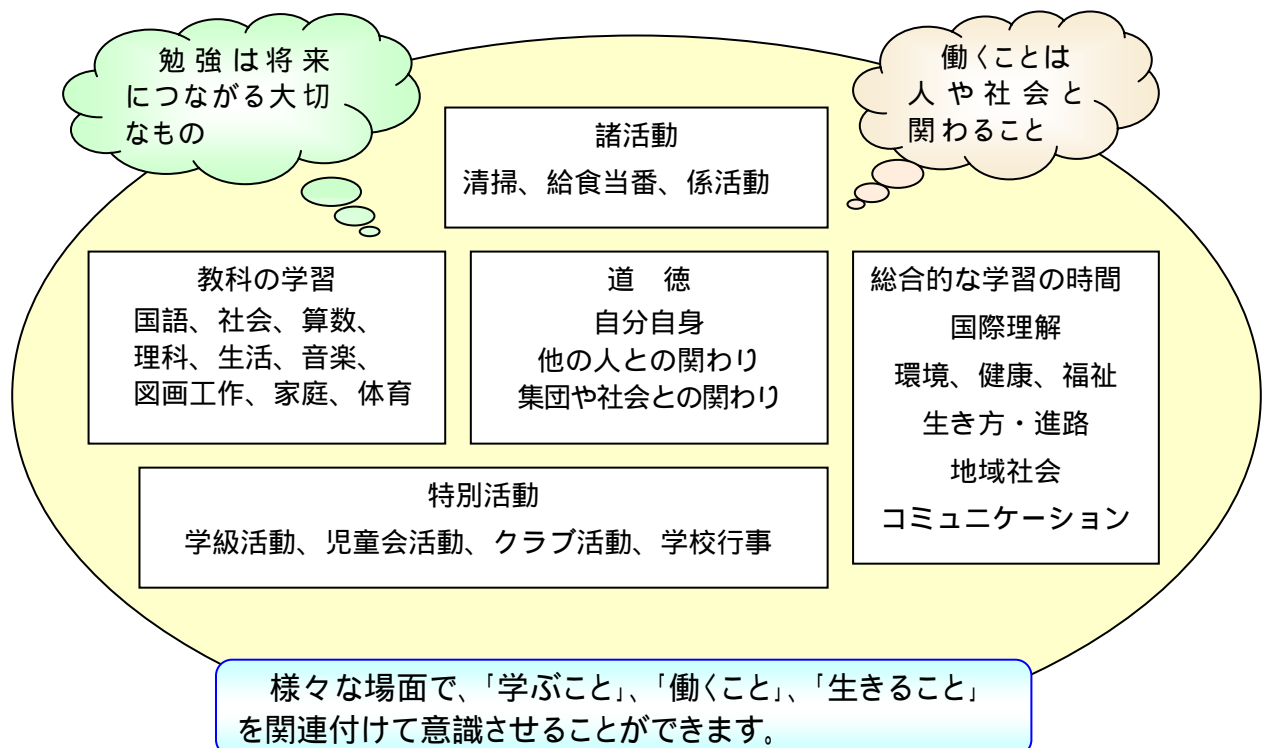
A1

児童生徒一人一人の勤労観や職業観を育て、主体的に選択・決定する能力・態度を身に付けていこうとするものです。

学校の教育活動全体がキャリア教育の範囲です。

小学校段階から、勤労観や職業観の形成の基礎となる具体的な意欲や態度、能力を育成しようとする視点をもつことが重視されます。

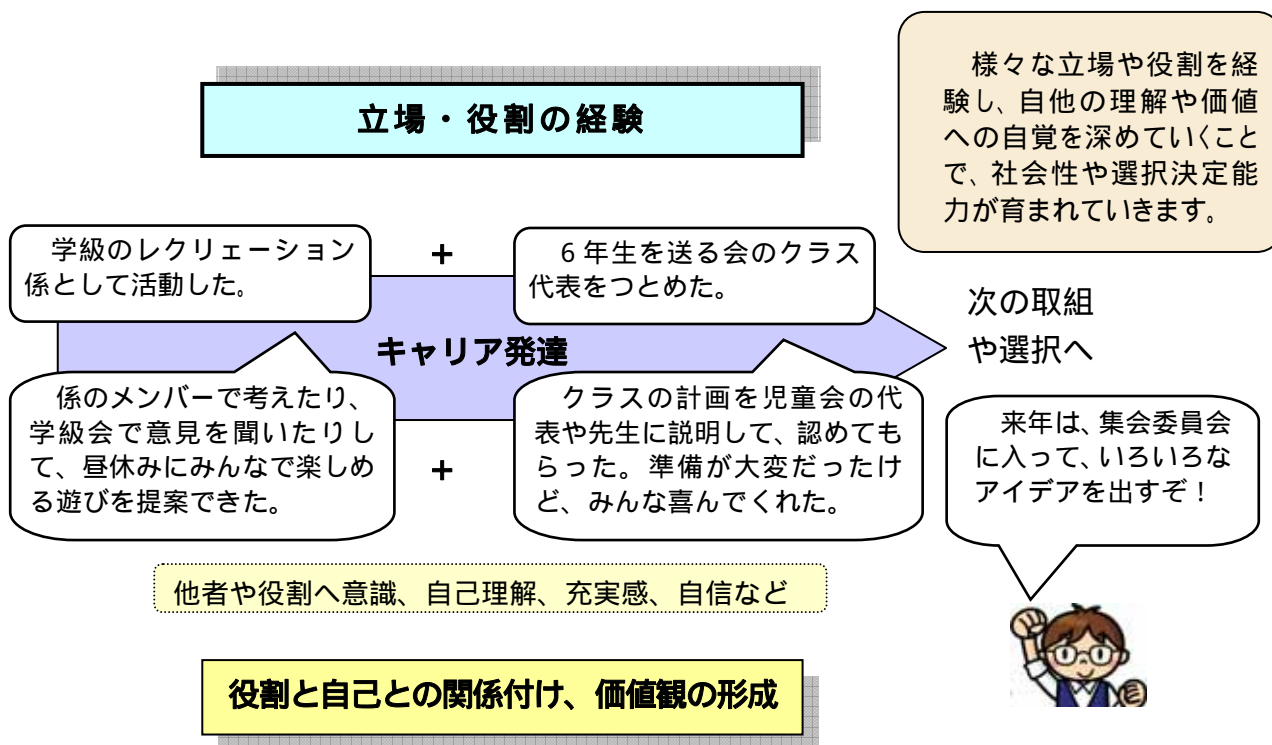
日々の教育活動には、児童生徒に、「学ぶこと」、「働くこと」、「生きること」を関連付けて意識させる場面がたくさんあります。学級の係活動や学校の児童会などの活動にどのようにかかわるか、あるいは、授業にどのように臨むかといったことまで、それらの意義をキャリア教育の視点で再確認することが大切です。



解説 1 「キャリア」のとりえ方

「キャリア」とは、個々人がこれまでに累積してきた経験やものの見方、考え方などの全体を指し、学習や経験を重ねることで形成されるものです。勤労観や職業観の基盤となるものであり、自分の生き方や進路を決定しようとするときのよりどころとなる大切なものです。

イメージ図 キャリア発達のプロセス



キャリア教育はキャリア発達を促すもの

キャリアは、人が成長し、様々な経験を重ねる中で変化していくものです。望ましい勤労観や職業観を育成するためには、集団の中で他者とかかわりながら、一人一人にふさわしいキャリアが形成されていくことが必要です。

小学校段階は、学ぶ基礎をつくる時期であるとともに、キャリア発達の基盤づくりの大切な時期です。

Q2

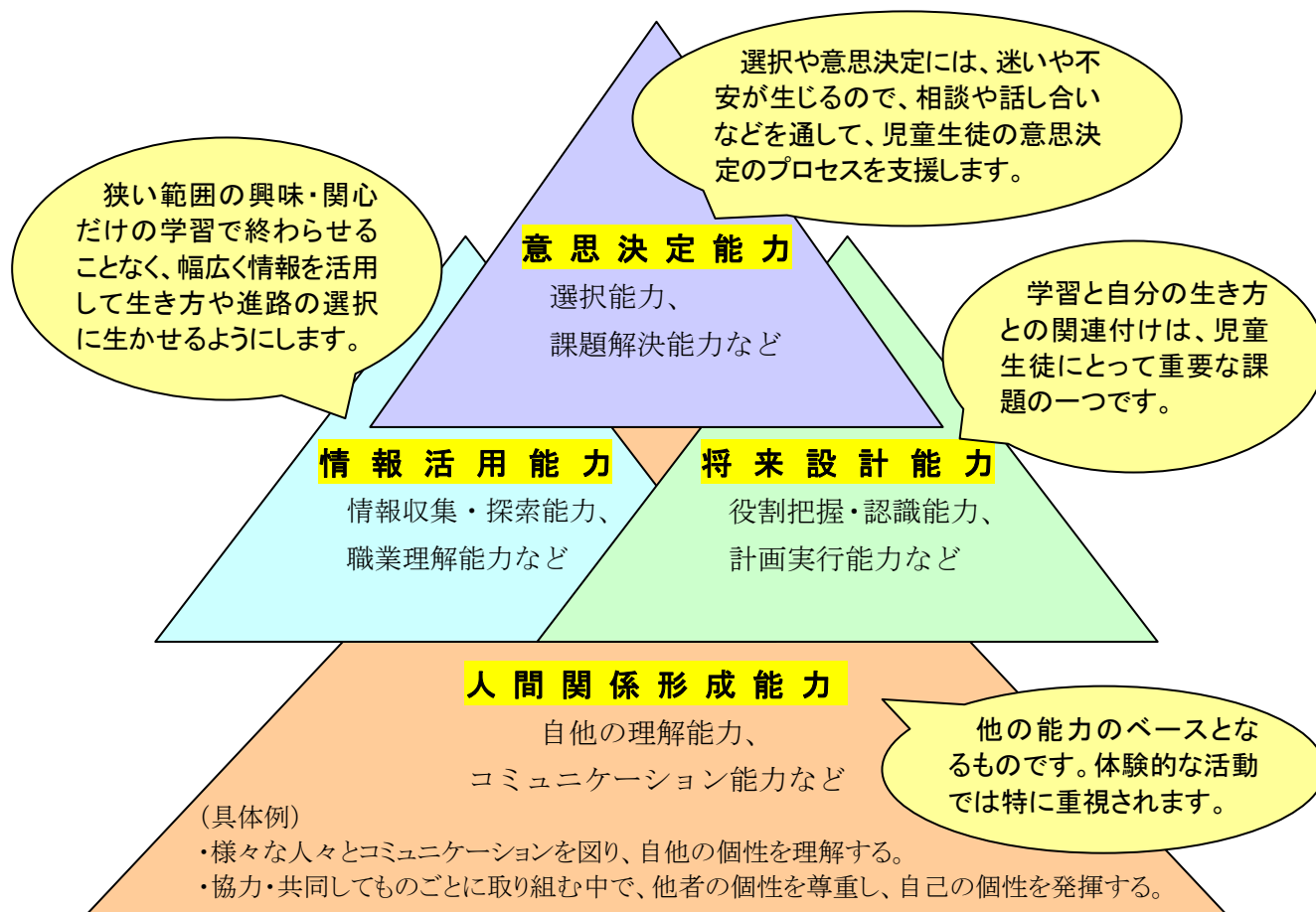
キャリア教育で育成を目指す能力や態度にはどのようなものがありますか？

A2

自立した社会人・職業人として生きていくために必要な能力・態度として、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」等があります。

- これらの能力を目標や評価の観点として用いることができます。
- 育成を目指す能力や態度については、先行研究などの例も参考にしつつ、自校の児童の実態を踏まえて具体化することが重要です。

イメージ図 キャリア教育で育成を目指す能力や態度

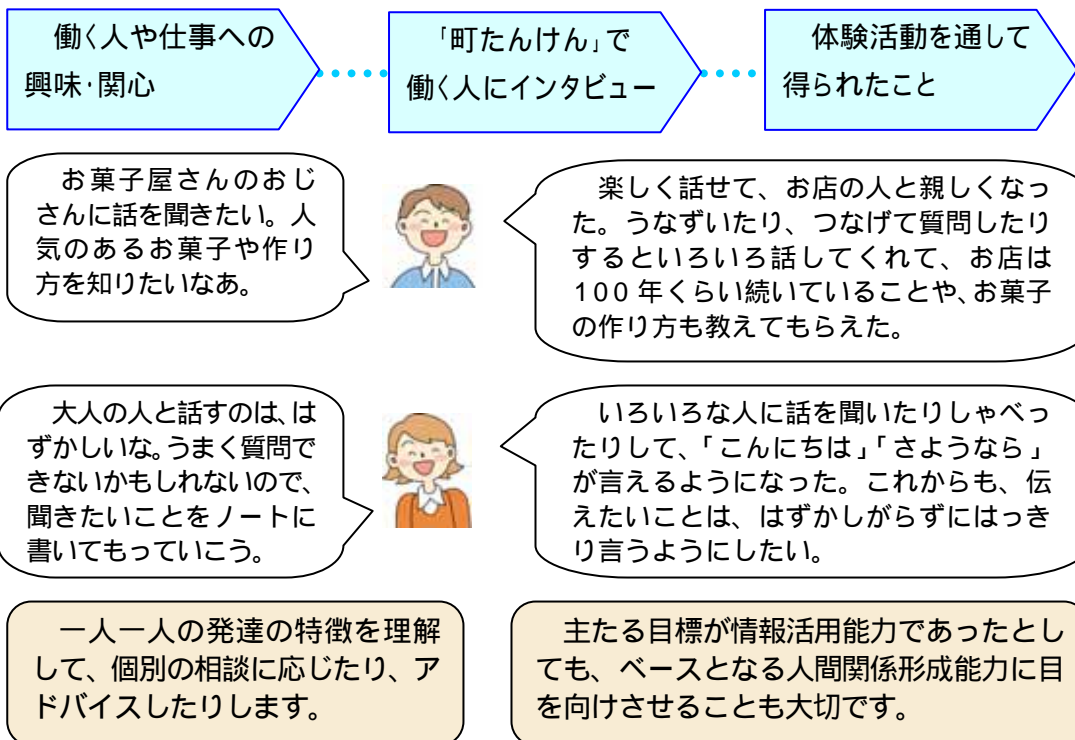


※ 国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(平成14年11月)」を基に作成。具体的な能力・態度の例はp.74、75に掲載。

解説2 育成を目指す能力や態度のとらえ方

キャリア教育の実践では、活動のねらいを明確にするためにいくつかの能力に力点を置いて指導する必要があります。ただし、人の能力は複合的なものであり、諸能力は相互に関連しながら発達するという考え方に立って、指導・支援に当たることが大切です。

体験活動(働く人へのインタビュー)を通して、人間関係形成能力に自信をもつとともに、情報活用能力も高めている例



人間関係形成能力は様々な能力や態度の育成に関わる

コミュニケーション能力をはじめ、よりよい人間関係を築くための資質や能力は、社会人あるいは職業人として生きていくために基盤となります。小さなことでもかまいませんから、様々な活動を通して、人間関係を築くことに自信をもてるようにしていくことが大切です。

また、あいさつや日常生活における基本的なマナーを指導する際には、相手や場に応じた振る舞いや、自分らしさを表現させることも重要です。

Q3

なぜ、小学校段階からキャリア教育に取り組む必要があるのですか？

A3

働くことに対する若者の意識や行動の変化、人間関係を築く力なども含め、子どもたちの成長・発達をめぐっては、精神的・社会的自立が遅れる傾向にあることが指摘されています。

このような問題に対して、中学校や高等学校における進路指導の充実にとどまらず、将来の自立への支援という観点から、小・中・高の連携を意識した体系的なキャリア教育の取組が求められています。

キャリア教育の推進が求められる背景

学校から社会への移行をめぐる課題

子どもたちの生活や意識の変容

学校教育に求められている課題 ... 「生きる力」の育成

- 社会人・職業人として自立した社会の形成者の育成の観点から
- ・学校での学習と社会との関連付けた教育
- ・生涯にわたって学び続ける意欲
- ・社会人・職業人としての基礎的な資質・能力
- ・自然体験、社会体験の充実
- ・家庭・地域と連携した教育
- ・発達段階に応じた指導の継続性

学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進が必要

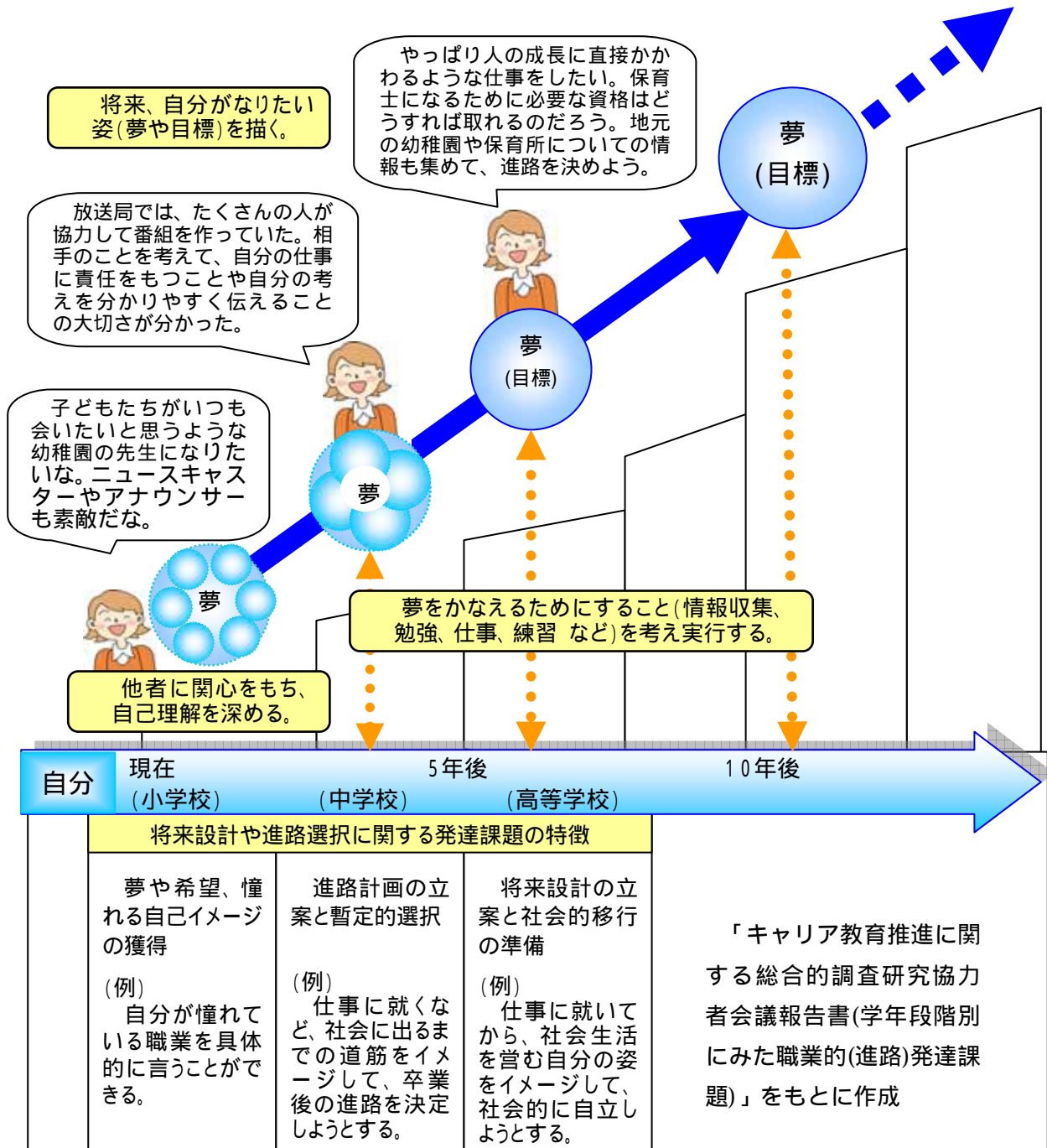
自立性や社会性の基礎となる能力・態度を育成する

具体的な職業にかかわる知識やノウハウは、その職業を目指してからでも身に付けられます。しかし、どんな職業についても必要とされる能力、例えば、時間や約束を守る、自分に与えられた責任を果たす、自分の意見を主体的に述べる、交渉する際に他の人ときちんとコミュニケーションがとれるなどの、基本的な生活能力は、自立性や社会性の基礎として小学校段階からきちんと積み上げていく必要があります。

解説3 児童生徒の発達段階に応じた課題

個々の児童生徒の成長・発達を効果的に支援するためには、児童生徒の発達段階やそれぞれの段階で身に付けさせたい能力・態度を意識して指導に当たる必要があります。生き方や進路を主体的に選択できる力は、段階的に、丁寧に積み上げていくことによって育まれていきます。

イメージ図 発達段階による課題と自己理解



Q4

小学校のキャリア教育では、どのようなことを重視しているのですか？

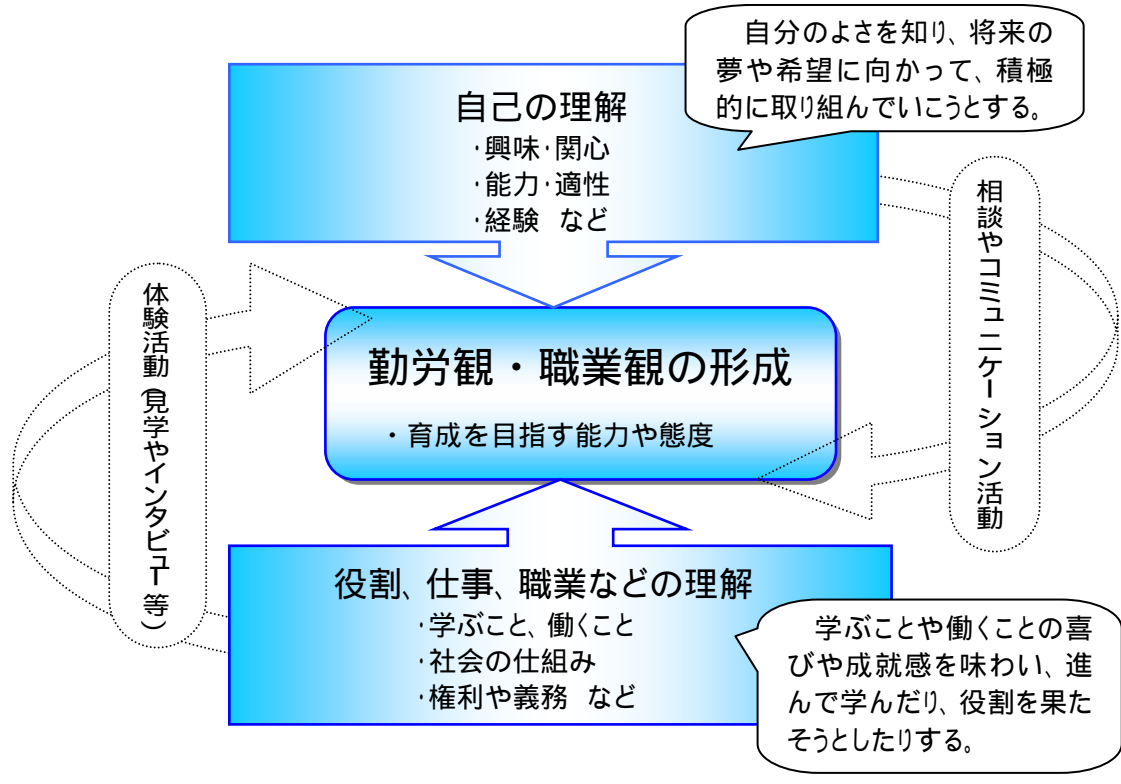
A 4

小学校では、自立意欲や社会性を育成するための基盤づくりの段階と位置付け、次のことを主眼において取り組みます。

家庭、学校、地域での諸活動の中で役割を果たすことなどを通して、自分のよさや得意分野に気付き、日々の生活の中でそれを生かし、さらに伸ばそうとする意欲や態度をもつことができるようにします。

身の回りの働く人の姿などから、自分たちの生活との関係を考え、働くことについての基礎的な理解を得ることができるようにします。

キャリア教育に関する学習内容



「キャリア教育」=「職業や勤労に関する授業や体験的活動」ではない

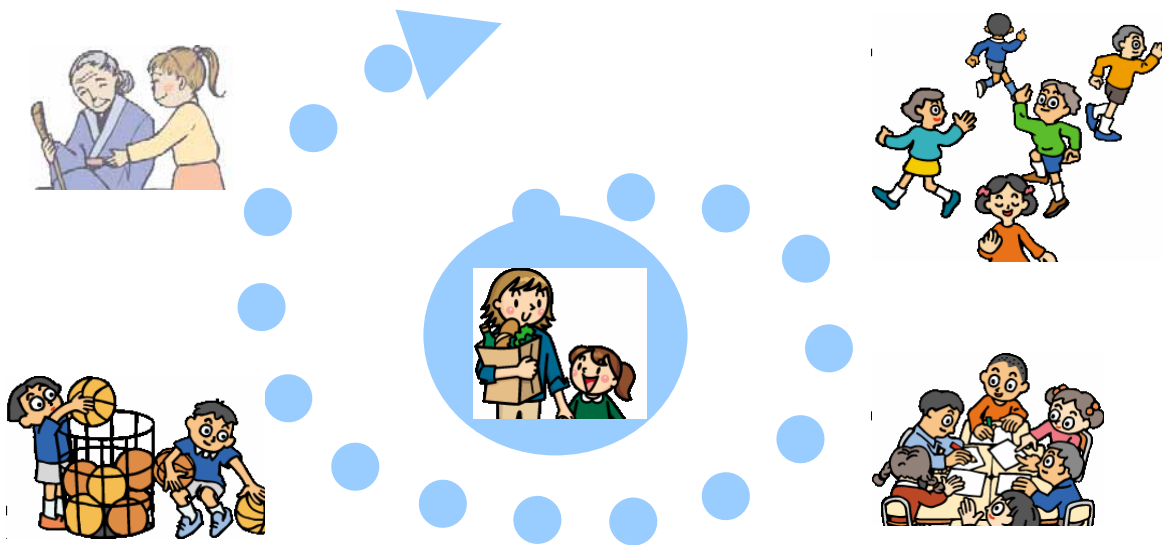
勤労観・職業観の育成は、キャリア教育の重要なねらいですが、働くことについては、家庭、学校、地域社会等における様々な立場や役割の経験も含む広い意味としてとらえる必要があります。その上で、体験的な活動や相談等を通して、自己及び他者、身の回りの仕事や環境等への積極的な関心を高め、自己理解を深めていくようにすることが大切です。



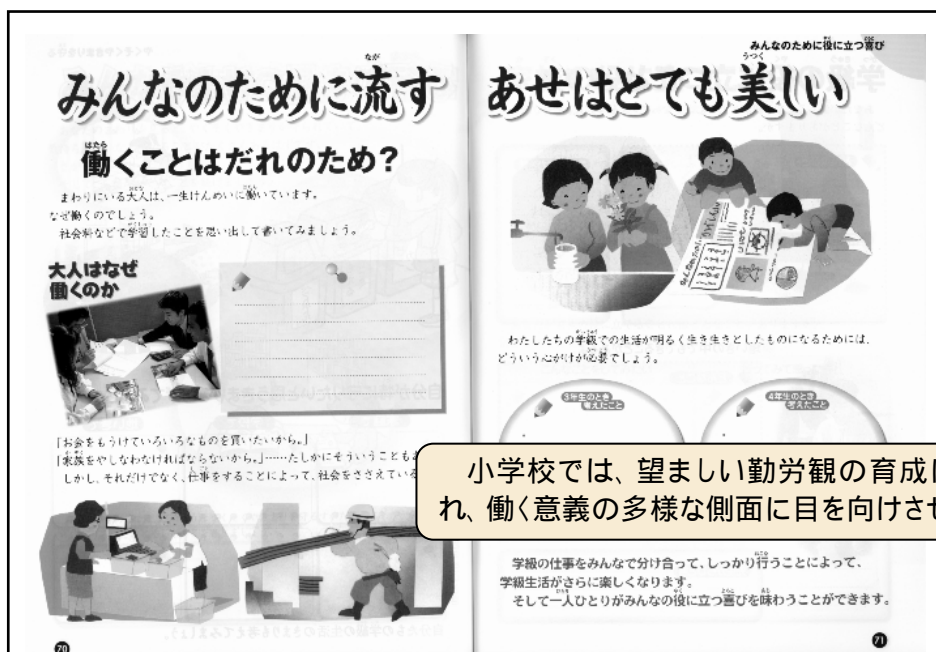
解説4 児童生徒の発達と勤労観及び職業観のとらえ方

小学校段階のキャリア教育では、日常生活での様々な役割についての理解や役割を果たそうとする態度など、「勤労観」の育成に力点を置き、その上で幅広く職業の世界にも目を向けられるようにしていきます。

イメージ図 役割の経験による人間関係の広がり



家での手伝い、学校における係活動や当番活動、清掃、遊び、地域における活動など、様々な役割を経験する中で、他者との人間関係を築き、活動の場を広げていくことができます。



小学校では、望ましい勤労観の育成に力を入れ、働く意義の多様な側面に目を向けさせます。

「心のノート（中学年用）」

Q5

小学校でキャリア教育を進める際には、どのようなことに留意するとよいのですか？

A5

児童一人一人の理解に努め、低・中・高学年の連続した6年間の育ちを見通して指導に当たるようにします。

6年間を通して児童の成長の過程を見つめ、一人一人の理解に努めながら、発達を支援していくことが重要です。

キャリア教育について保護者の理解を得ること、幼稚園や保育所、中学校との連携、地域住民とのつながりを生かした取り組みの工夫などが望まれます。



解説5 連続した6年間の育ちを見据えた児童理解と継続的な支援

小学校6年間は、児童の成長が著しく、社会的自立の基盤を形成する重要な時期です。児童一人一人が、発達段階に応じて、社会性や自立に必要な能力・態度を身に付けていくことができるよう、学年間の引継ぎや教師間のコミュニケーションを密にして指導に当たることが望まれます。キャリア教育は、教育活動全体を通して継続的に取り組んでいくことが大切です。

中学校との連携

【高学年】

- ・ 自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。
- ・ 集団の中で自己を生かす。
- ・ 社会と自己のかかわりから、自らの夢や希望をふくらませる。



小学校の最高学年段階として自覚ある行動が求められます。将来の夢や目標をもち主体的に行動できるよう役割の経験や振り返りを充実させます。

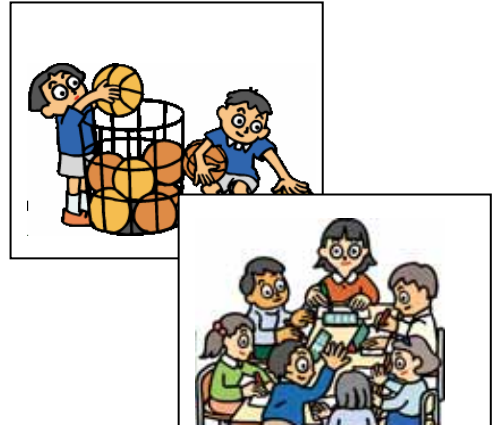


【中学年】

- ・ 友達と協力して活動する中でかかわりを深める。
- ・ 自分の持ち味を發揮し、役割を自覚する。



行動範囲や友達関係が広がる時期なので、特に自主性や協力し助け合う態度の育成に力を入れます。

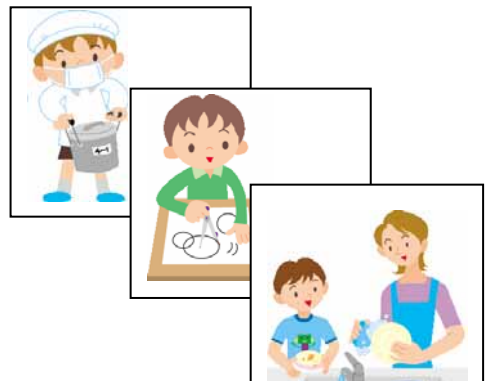


【低学年】

- ・ 小学校生活に適應する。
- ・ 身の回りの事象への関心を高める。
- ・ 自分の好きなことを見つけてのびのびと活動する。



学習や生活に必要な習慣や技能を身に付けられるよう、家庭や幼稚園などとの連携を大切にしながら指導します。



社会への関心、他者とかかわる意欲・態度・能力の育成

幼稚園、保育所との連携

Q6

児童へのかかわり方や支援については、どのようなことに留意するとよいのですか？

A 6

児童が生活や学習に取り組む中で、自己のよさや可能性に気づき、それぞれの夢や目標の実現に向けて努力できるように指導や援助を継続していくことが重要です。

各教科等の学習や体験的活動、日常生活での経験の積み重ねが、個々の児童の将来につながり役に立つということを、教職員一人一人がこれまで以上に意識して教育活動に取り組み、児童にかかわっていくようにします。

また、そのような意識で、児童の実態をとらえ、教育活動の内容や指導について改めて見直していくことが大切です。



評価の工夫 - 自分のよさや可能性への気づきを促す -

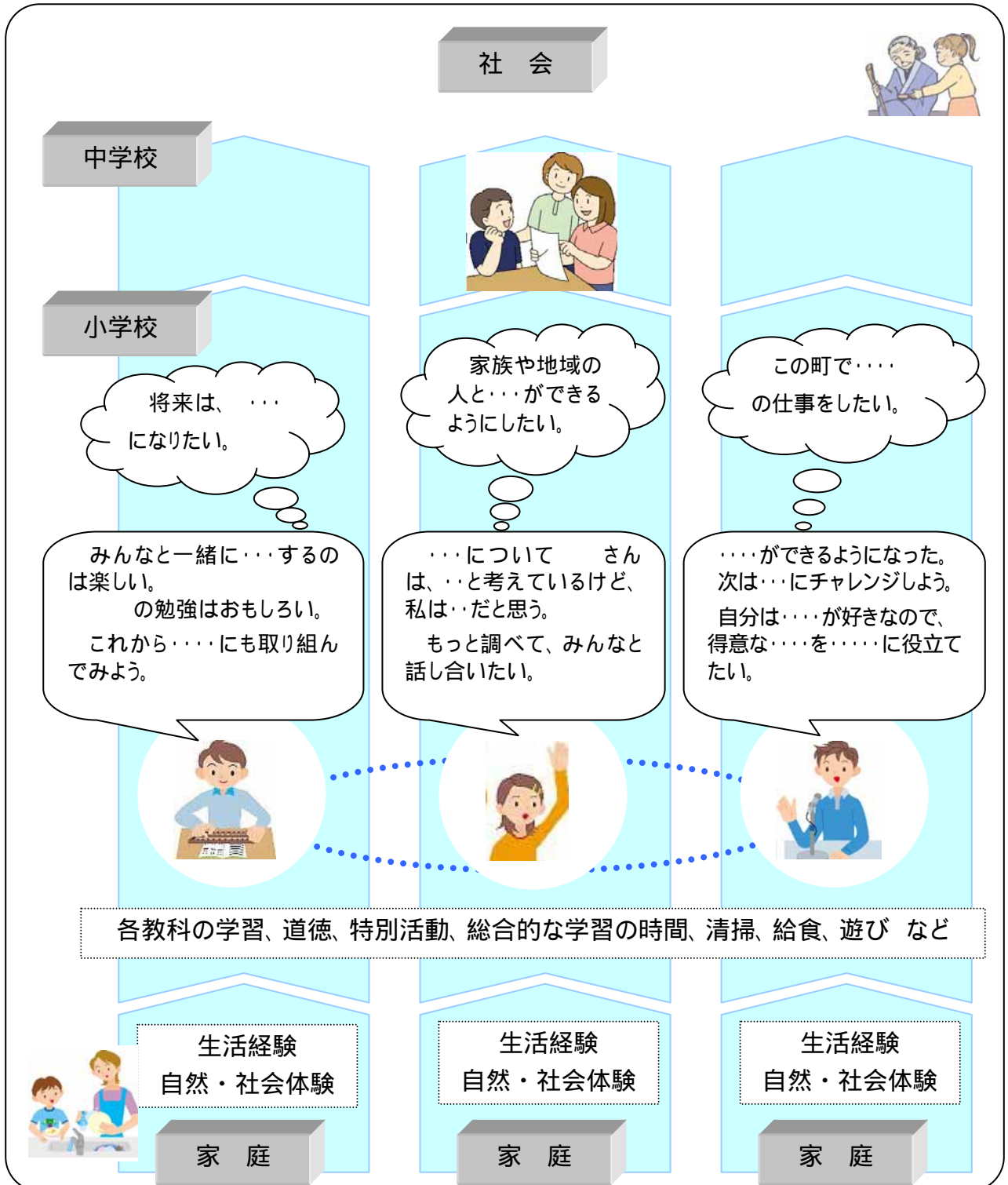
様々な生き方があることを知ったり、自分のよさが人との出会いの中で引き出されていくことを実感したりして、「自分は～ができた」「こんなこともできそうだ」と自分のよさや可能性に目を向け、自ら選択決定する力を高めていけるよう、人とかわる場の設定や自己への気づきを促す評価を工夫しましょう。

自分が受容されているという安心感や、理解してくれると思える相手への信頼感は、日常生活での励ましや言葉かけによって確かなものになっていきます。どのような能力が身に付いたか、あるいは高まったかということだけではなく、「現時点での自分の力をどれだけ発揮できたか」ということも大事にして、振り返りをさせたり、言葉かけをしたりしましょう。

自己の成長を継続的にとらえる工夫として、「心のノート」やポートフォリオを活用して、記録を累積していくことも有効です。自分のものの見方や考え方が学習や体験の過程でどのように変わってきたのかを自覚できるようにすることが重要です。

解説6 学習や生活経験を通して、学ぶことや役割を果たす喜びを味わう

小学校は生涯学習の入門期であることを考え、授業で学習する内容について実感を伴って理解できるように工夫するとともに、「学ぶことの楽しさや喜び」、「社会生活における必要性や有用性」などを感じることができるよう導くことが大切です。さらに、学習や生活の中で、自分の役割を果たしたり、友達と協力しながら問題を解決したりする経験を重ねていくことで、社会性や自立への基礎が養われていきます。



将来の実生活を視野に入れて

学習や生活の基盤づくりを支援しましょう。



第2章

キャリア教育を実践しましょう

実践編 1

教員一人一人が教育活動のねらいと内容を再確認する

小学校におけるキャリア教育の進め方について示しています。

学級担任、あるいは、教科担任として、キャリア教育にどのように取り組めばよいのか、留意すべきことは何かという疑問があるとき、その解決の手がかりとして参考にしてください。

Q7 小学校では、どのようなことからキャリア教育を始めればよいのですか？

A7

児童の実態やこれまでに取り組んできた教育活動について、学級担任が、児童一人一人のキャリア発達を促すという視点で見直すことから始めることができます。

現在行っている教育活動が、児童一人一人の生き方や進路選択につながることを意識して、それぞれの活動のねらいと内容を確認し、指導や評価のポイントを整理しましょう。

学級担任は、学校における児童の生活の様子や各教科等の内容を継続的に把握できるので、その利点を生かした取組が望まれます。



キャリア教育の視点で教育活動を見直す

- 1 各教育活動のねらいを確認する
- 2 キャリア教育の視点から育成が望まれる能力・態度を明確にする

職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の視点

自己及び他者への積極的関心の形成・発展
身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上
夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成

- 3 学習や活動を吟味し、指導と評価の要点を明確にする
- 4 事前や事後の指導や教育活動とのかかわりをおさえる
- 5 他の教育活動との関連や生活とのつながりを考慮する
- 6 ねらいの実現状況を評価する
(発揮している力、態度、認識の変容、意欲の向上など)

(評価の視点の例)

- ・働くことや学ぶことについてどのような気付きや意識の変容がみられるか
- ・どのような力を発揮しているか
- ・教科等の学習への関心や意欲につながっているか
- ・活動や体験、学習が児童の能力育成にどのようにつながっているか など

解説7 キャリア教育の視点から教育活動のねらいと内容を検討する

キャリア教育は、特定の領域、単元の一つではなく、教育活動全体に働きかけていく「機能」とあるという見方に立ち、各教科等のねらいを再確認し、学習内容や指導を充実させていくことに意味があります。

ここでは、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間とキャリア教育との関連について解説するとともに、既に行われている教育活動のいくつかを取り上げて、指導と評価のポイントを示しました。

この章で紹介する事例

頁	教科、領域等	概要	関連の深い能力			
			人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
20	国語 (中学年) 「十さいを祝おう」	伝えたい内容をはっきりさせ、友達との学び合いを通してコミュニケーション能力を高める。				
22	社会 (中学年) 「地域の安全を守る仕事」	働く人へのインタビューや見学の機会を生かし、社会への関心と情報活用能力を高める。				
24	理科 (中学年) 「電池の働きを調べよう」	電気の性質や働きについて学習し、生活を支えている科学技術への関心を高める。				
26	生活 (低学年) 「かぞくだいすき」	学校と家庭をつないだ学習を通して、働くことの喜びを実感し、役割の必要性に気付く。				
29	音楽 (中学年) 「様子を思いうかべてアレンジしよう」	グループで原曲をアレンジする活動を通して、自他のよさや表現の多様性に気付く。				
32	体育 (中学年) 「けんこうな生活」	自分の生活を振り返り、健康によい生活のしかたを理解し、進んで行動する。				
36	道徳 (高学年) 「希望をもって」	総合単元的な道徳学習を通して、目標の実現を目指す道徳的实践力を高める。				
38	道徳 (中学年) 「働くことはだれのため」	日常生活における役割の経験を振り返り、働くことへ意識を高める。				
42	児童会活動 (全学年) 「運動会の成果を生活に生かそう」	運動会への取組について振り返り、体験を通して学んだことを学習や生活に生かす。				
44	学級活動 (中・高学年) 「自分を見つめよう」	友達との交流を通して、自己理解を深め、自己の可能性を広げる。				
49	総合的な学習の時間 (中学年) 「地域で働く人から学ぼう」	地域の人とのかかわりを通して、実社会に触れ、働くことの喜びや意味について考える。				



教科の学習とキャリア教育との関連

教科を通じて身に付いた力が、キャリア教育で育てたい力につながる

キャリア教育は、各単元、各時間のねらいをつくり変えるのものではなく、新たなねらいを付け加えるものでもありません。各教科で育成したい力、単元や授業のねらいを明確にし、確かな学力を身に付けさせることが基本です。

学校教育で身に付けた能力や態度を、現在及び将来における様々な選択場面や生き方にどのように生かしていくかという視点を持ち、キャリア発達にかかわる能力育成の場として各教科の学習を位置付け、一人一人の発達を支援することを意識して指導を充実させていくことが重要です。

「学ぶこと」「働くこと」「生きること」のつながりを意識して指導に当たる

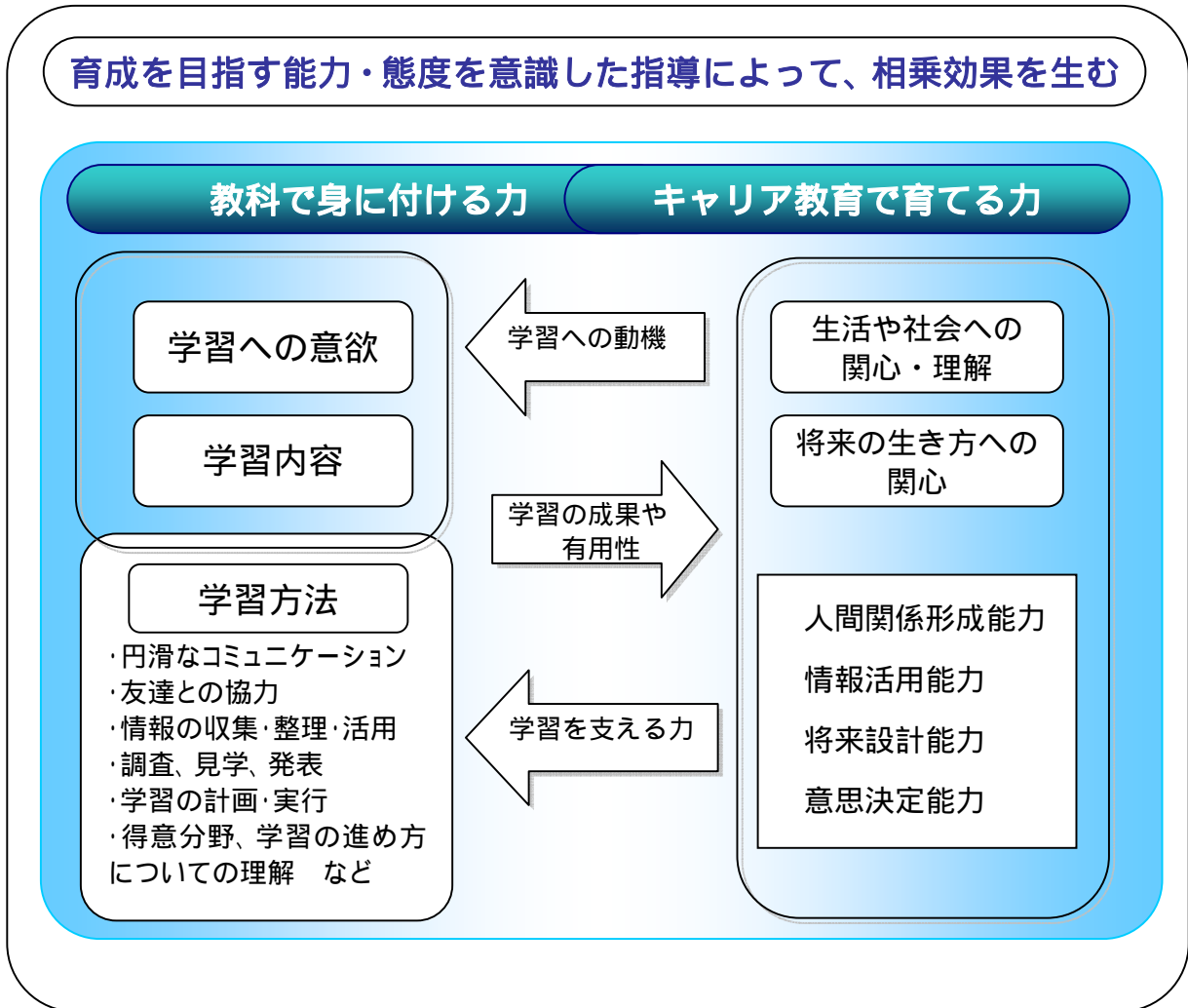
教科の学習は、児童一人一人の生き方や将来の進路と深く結び付いています。教科の学習を通して、日常生活経験だけでは得られない科学的な見方や考え方を学んだり、様々な人の生き方について知ったりして、自分の可能性を広げることができます。

児童が、自分のよさや可能性に気付いたり、人生を切り拓くきっかけを得たりすることができるように、「学ぶこと」「働くこと」「生きること」のつながりを意識して指導に当たしましょう。教師は、人生の先輩としての自分の経験を生かしながら、児童が願う方向に導くという重要な役割を担っています。

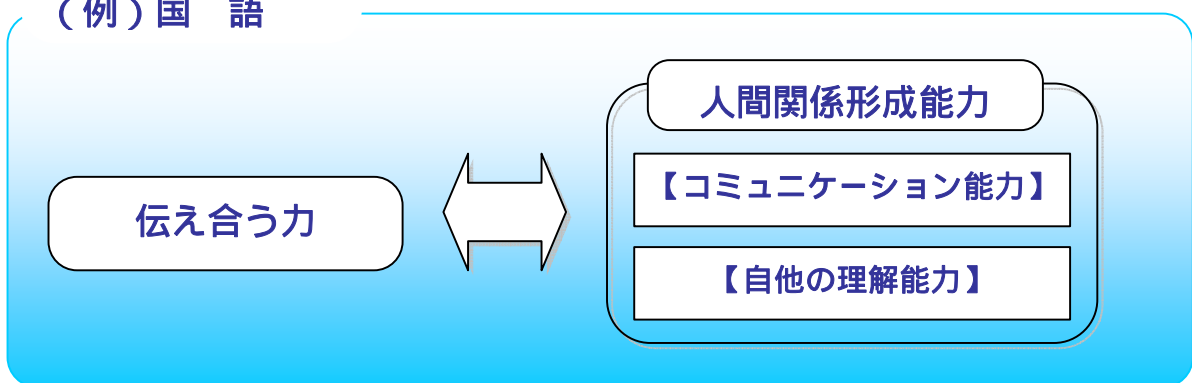
良好な人間関係が、他者とともに学ぶ楽しさの実感や自信につながる

幼少期の子どもは、何を勉強するかということ以上に、だれと勉強するかということが大きく影響します。先生が好き、親しい友達がいる、そういうことに惹かれて勉強に入っていく、次第に勉強の面白さが分かって、やる気が出てくることもあります。人間関係的な要因がベースになって、学習も充実していきます。こうしたことは、社会に出て仕事をする際にも共通するというのを、児童に伝えるのも大事なことでしょう。

育成を目指す能力・態度を意識した指導によって、相乗効果を生む



(例) 国語



表現力は円滑なコミュニケーションのためには不可欠な技能である。また、コミュニケーションが豊かであれば、お互いに啓発したり共感したりして一人一人の個性や学力が磨かれる。

【事例1 国語科】 「十さいを祝おう」(中学年)

友だちとの学び合いを通して、コミュニケーション能力を高める

自分の気持ちや考えを分かってもらいたいという思いや、相手を理解しようとする態度は、人間関係を築く基盤であり、社会生活を営む上で必要となるコミュニケーション能力の育成においても、「話すこと・聞くこと」の指導は重要です。特別活動や総合的な学習の時間との関連を図るなど、実践的な活動の場面を設けることで、目的意識や学習意欲を高めることができます。

ねらい

思い出に強く残っていることやがんばっていること、将来の夢などから話題を選び、自分の思いが聞き手に伝わるように、話の組み立てや表現方法を工夫して発表する。

話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめる。

キャリア教育の視点

- ・ 自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。
- ・ 友達の気持ちや考えを理解しようとする。【コミュニケーション能力】

展開例

- 「十さいを祝う会」の計画を話し合う。【学級活動】
- スピーチの準備をする。(活動例1)
- スピーチの練習をする。(活動例2)
- 「十さいを祝う会」を開く。【学級活動】
- 学習の振り返りをする。



活動例1 「スピーチの準備をしよう」

- 1 家族へのインタビューや友達との対話などを通して、これまでの自分を振り返ったり、夢や目標について考えたりして、伝えたい相手と内容をはっきりさせる。

10年間を見つめよう 4年 組()	
【生まれたころ】 身長 cm 体重 g	【十さいの今】 身長 cm 体重 g
【エピソード】	【入学前の思い出】
【伝えたいこと】 (伝えたい相手) ・強く思い出に残っていること ・夢や目標 がんばっていること など	
【伝えたい相手】	

自分のどんな思いを、だれに伝えたいか、何を中心に話すかということが明確になるよう、友達と対話させたり、ワークシートを活用させたりしながら、身近な人とのかかわりという視点でこれまでの自分や大切にしていることを見つめ直したり、夢や目標について考えさせたりします。

自分が生まれたときのエピソードや入学前の思い出などは、家族などに話を聞いて書くよう働きかけます。

- 2 話したいことを箇条書きにし、組み立てを考えながら、スピーチメモを作る。

活動例 2

「友達と協力してスピーチの練習をしよう」

- 1 聞き手に思いが伝わるよう心がけて練習する。
- 2 2人組やグループでスピーチを聞き、お互いにアドバイスする。
 - ・ さらによいスピーチにするために、聞き手は、よく分からなかったことやもっと知りたいことを質問したり、感想を伝えたりする。
 - ・ 話し手は、聞き手とのやり取りやメッセージカードを参考にして、必要があれば発表会に向けて原稿を修正したり、小道具を用意したりする。

メッセージカード

(さんへ) (より)

スピーチの題名 **プロ野球のせん手をめざして**

友達のスーピーチを聞いてよいところを見つけました。

（たいへんよいよ）

話し方

大きな声ではっきりと話していましたか。()

ゆつくりと、間を取って話していましたか。()

分かりやすさ

（ ）

（ ）

（ ）

（ ）

（ ）

（ ）

（ ）

（ ）

（ ）

メッセージ

初めて試合に勝ったときうれしくてとび上がった様子が、よくわかりました。練習で百球も投げていてすごいですね。プロのピッチャーになれるようにがんばってね。

メッセージ欄には、話し手の伝えたいことがどう伝わったかを書くように指示しておきます。話したことが相手に伝わる喜びを味わわせ、伝え合うことへの意欲を高めるようにします。

他の教育活動との関連

【道徳】
主として自分自身に関すること

【特別活動】
・ 自分を見つめる
・ 十さいを祝う会

【日常生活】
朝の会の1分間スピーチ、各教科におけるコミュニケーション

指導と評価のポイント

- ・ 学級活動の「自分を見つめる」との関連を図り、自己理解を深めさせたり、目標にしている人ややってみたい仕事に関する情報を集めさせたりして、伝えたい内容をはっきりさせます。
- ・ 伝えたいという気持ちを高めるために、学級活動の時間などを活用して「十さいを祝う会」を開きます。家族やお世話になった人にも発表会に参加してもらうよう働きかけて、メッセージカードを活用して発表内容や表現について評価してもらったり、発表者と聞き手が対話する場面を設けたりするとよいでしょう。
(評価の視点の例)
話の組み立て、話し方のスキル、聞き手を惹き付ける工夫とその効果など

【事例2 社会科】 「地域の安全を守る仕事」(中学年)

見学やインタビューを通して、働く人や社会への関心を高める

自分たちの生活が、多くの人たちの努力や働きによって支えられ、成り立っていることを知ることは、自分と社会とのつながりに気付き、社会の一員としての自覚を高めることにつながります。働く人の様子を観察したり話を聞いたりする活動を取り入れ、実感を伴った理解を図るとともに、情報収集・探索能力を高めるようにします。

ねらい

地域社会における災害及び事故から人々の安全を守る工夫について、見学したり調査したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力を考えるようにする。

キャリア教育の視点

- ・ 自分たちのくらしを支える職業や仕事があることを知り、働くことの意義や、働く人の思いを考える。【情報収集・探索能力】
- ・ 自分の生活を支えている人に感謝する。【自他の理解能力】

「仕事を通じて社会とつながること」や「他者や社会に役立つことの尊さ」に気付くよう、働く人に直接話を聞く機会を生かしましょう。



展開例

「消防しょの仕事調べよう」(消防しょの見学)

火災発生時の対応について知りたいことを話し合う。

どうやって火事を消すのかな？



火事が起きたときに、早く現場に駆けつけることができるのはどうしてかしら？



消防署見学の計画を立て、見たり聞いたりして決める。

消防署を見学し、消防士の話を聞く。

すごいなあ。
ぼくも大人になったら
消防士になれるかな。



消防士の仕事では、どんなことが大切ですか？

素早く消火できるよう、ふだんから訓練をしたり設備の点検をしたりしています。仕事をする上では、チームワークも大切です。



見学で見たり聞いたりしたことを学習カードにまとめ、発表し合う。(活動例)

活動例

見学で見たり聞いたりしたことを学習カードにまとめ、発表し合う

見学の観点を確認し、見学して調べたことを学習カードに書かせます。

消防しょを見学しよう *見たものを絵や文でかいておこう。

【見てくるもの】

- ・消防しょのようす（せつび、道具など）
- ・仕事のようす

消防しょの人の仕事について調べよう

【全員が調べること】	メモ
1 どんな仕事がありますか。 (火事にそなえて、どんなことをしていますか)	消防車や道具の点けん、 くんれん、地いきの見まわり
2 火事の現場では、どんなことに気をつけていますか。 (大切なことは何ですか)	命を守る(自分、仲間、助ける人) けがをしない、チームワーク ひがいを広げない
3 どんな人が協力するのですか [わたしのしつもん]	けいさつ、消防団、
1 うれしいのは、どんなことですか。	火事
2 どうして、消防士になったのですか。	
3	

この例では、全員が調べることのほかに、自分が知りたいことを書かせています。消防士や消防団員に質問したり、各自が調べたものを発表し合ったりするなど、自らが他者に働きかけ、必要とする情報を収集する経験を積ませることが大切です。

【わかったこと、考えたこと】

消防士の さんは、命を守ることが一番大切で(助けを求めている人、自分、仲間)、チームワークが大事だといっていました。だから、消防しょの人たちは、ふだんから訓練をしたり消防車の点けんをしたりしているのだとわかりました。



他の教育活動との関連

【国語】

- ・メモを取りながら聞く
- ・調べた事柄について説明する

【道徳】

主として集団や社会との
かわりに関すること

【特別活動】

- ・避難訓練
- ・当番の仕事や係活動

指導と評価のポイント

- ・ 国語の学習との関連を図り、相手や目的に応じ筋道立てて話すことや、話の中心に気を付けて聞くことを意識させます。また、事前に質問を考え、インタビューの仕方を練習させるなど、主体的な情報収集ができるよう指導します。
- ・ 消防署の人の話などから、働くことの意義や自分の生活とのつながりについて考えさせ、自分にできることを話し合わせるようにします。

【事例3 理科】 「電池の働きを調べよう」(中学年)

身の回りで使われている電池を調べる活動を通して、生活を支える科学技術への関心を高める

身の回りに使われている電気器具について実物や資料を調べることにより、様々な種類の電池が利用されていることを実感を伴って理解できるようにします。授業では、実験や友達との話し合いなどを通して、目に見えない電気の性質や電流が流れる仕組みについて理解できるよう支援し、生活とのかかわりに関心をもたせながら科学的な考え方を深めるようにします。

ねらい

電気による現象を、電気の働きと関係付けながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究したりものづくりをしたりする活動を通して、電気の性質や働きについての見方や考え方を養う。

個々の児童が主体的に問題解決活動を進めるとともに、学習の成果を日常生活で見られる自然事象の理解に生かすようにする。(内容の取扱いについての配慮事項)

キャリア教育の視点

- ・自分の考えをみんなの前で話す。 【コミュニケーション能力】
- ・自分のよいところを見付ける。 【自他の理解能力】
- ・友達のよいところを認め、励まし合う。

展開例

身近な電気器具から電池を探す。《課題発見、予想》

- ・家や学校にある電気器具に電池が使われていることを調べる。(活動例)

各自が調べてきたことをグループで情報交換する活動を取り入れ、意見やアイデアを積極的に出し合えるようにします。そうすることで、理科の学習が深まるとともに、自他のよさを認め合える具体的な素材を得ることができます。

「直列つなぎ」と「並列つなぎ」が、身近な電気の器具に実際に利用されているかどうか確認する。《観察・実験・検証》

現在使われている電池やその用途について、インターネットや図書館の本などで調べる。《深化・発展・応用》



活動例

身近な電気器具に電池が使われていることを調べる

ワークシート（グループ用）

- ・ 電池を使っている電気器具をさがしてみよう。
- ・ 電池を使っていると知ったできごと、カードに書きましょう。

テレビリモコン（Cさん）
おとして電池をだしてしまった。

ゲーム機（Bさん）
買ってもらったとき、自分で電池をいれた。

マイク（Aさん）
先生がとりかえていた。

かいちゅう電灯（Bさん）
自分でとりかえた。

ガスコンロ（Dさん）
おかあさんが教えてくれた。

めざまし時計（Aさん）
電池をとりかえたら動くようになった。

家で調べてくるもの

Aさん：めざまし時計、・・・

Bさん：かいちゅう電灯、・・・

各自が具体的な意見を提案しやすいように、カードに書かせてから発表させます。カードには名前を書かせ、自他の意見やアイデアを尊重する意識をもたせるようにします。

他の教育活動との関連

【道徳】

主として他の人とのかかわりに関すること

【社会】4年 5年

廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり

【日常生活】

日常的な様々な役割の経験、人間関係

指導と評価のポイント

- ・ 「電気の性質や働きについての見方や考え方を養う」ことが最も重要なねらいです。「+、-」の電極やつなぎ方に着目させながら、身近な電気器具の利用につなげるようにしましょう。

発問例：「調べた器具の +、- や電池のつなぎ方を絵に表してみましよう。」

- ・ 時代とともに、「性能」、「安全性」、「環境への影響」などの視点から、技術革新が行われています。新しい電池の開発によって産業が変化したことが、調べ学習や見学を通して分かります。第5学年の社会科の内容である「様々な工業製品が国民生活を支えていること」に関連付けて発展的に扱うと効果的です。

課題例：「どのような電池が、工場で作られたり、お店で売られたりしていたか、数十年前（1960年代、1970年代）と現在を比べてみましよう。」

- ・ 見いだした問題の追究やものづくりの過程で、一人一人が工夫したり、アイデアや意見を出し合ったりすることを大切にします。

意見の取り上げ方の例：「それは「 さん」の工夫したアイデアですね。」

【事例4 生活科】 「かぞくだいすき」(低学年)

学校と家庭をつないだ学習を通して、働くことの喜びを実感し、役割の必要性に気付く

家庭での生活を振り返り、家族との触れ合いや手伝いなどを通して、家庭の温かさや家族の大切さを感じとり、家族の役割や仕事の分担に気付いて自分にできることを積極的に実行できるようにします。家族の役に立っているという実感が、子どもたちに働くことの意味を教えます。

ねらい

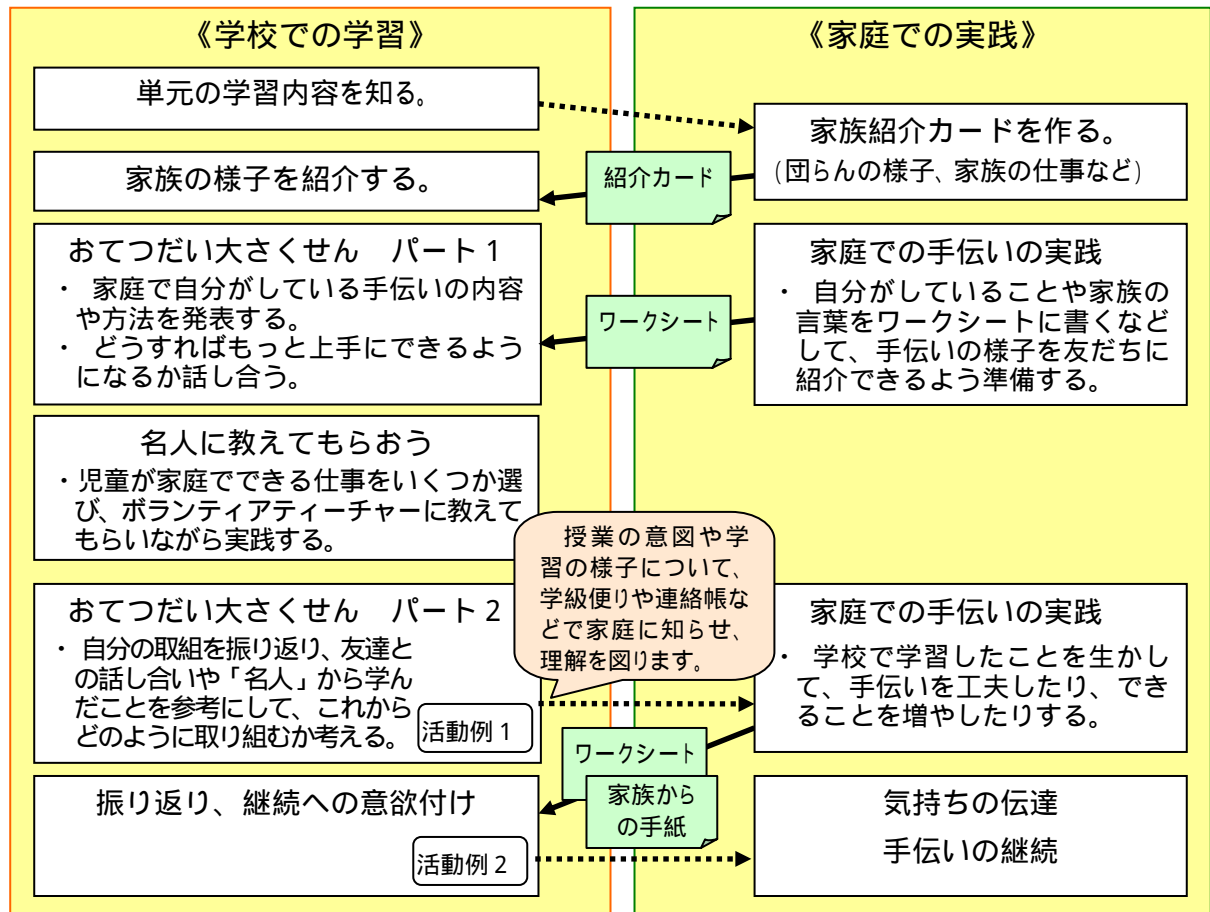
家族の仕事や役割に興味をもち、進んで自分にできることを行おうとする。
 家族の仕事や自分がした手伝いの様子を、自分なりの方法で表現することができる。
 家庭生活が家族によって支えられていることや、家庭における自分の役割に気付くことができる。

キャリア教育の視点

- ・ 家の仕事の内容や役割の大切さに気付き、手伝いや家族のため自分ができることを実行する。【役割把握・認識能力】
- ・ 家族に守られ助けられていることに気付き、家族に感謝の気持ちをもつ。【自他の理解能力】

展開例

家庭の協力を得て学習を進めます。



活動例 1

「おてつだい大きくせんパート2 ~もっとできることはないかな~」

1 「おてつだい大きくせんパート1」の活動を振り返る。

家庭での手伝いの様子を振り返ったり、ワークシートを見直したりして、これまでの自分の取組について発表する。

友達の発表を聞いて気付いたことや感想を伝える。 (ワークシートの例)

家族の役に立った経験を自覚させることは、自信や意欲につながります。「役割把握・認識能力」との関連を考慮し、家の手伝いや役割の必要性にも気付くよう、助言したり授業の展開を工夫したりします。

名人(ボランティアの方)に教えてもらったことを振り返る。

「名人に教えてもらおう」で体験したお手伝いについても、ビデオの視聴や話し合いなどを通して、がんばれた自分を振り返らせ、パート2の計画に生かせるようにします。

おてつだい大きくせんパート1 11月4日(日) はれ
1ねん くみ ()

【おふるそうじ】

わたしは、おふるあらいをがんばりました。よこのかべとゆかをきれいにしました。あらったあとは、つるつるになりました。

おうちの人から
あゆみ、おふるそうじをしてくれてありがとう。きれいなおふるにみられて、きもちがいいですよ。おかあさんより

先生から： おふるそうじができてすごいですね。あゆみさんが、きれいにしてくれたので、おうちの人には喜んでますね。

2 「おてつだい大きくせんパート2」の計画を立てる。

この單元では、家庭とのやり取りを重視しています。自立に必要な力を身に付けていくことの大切さや家庭の役割について、保護者に再確認してもらう機会となるよう、学級便りや保護者会等で授業のねらいを伝えます。

家族と話し合う機会をもち、活動への意欲を継続できるよう、ワークシートを作成するなど、具体的な働きかけを工夫することで、役割把握・認識能力やコミュニケーション能力の育成を図ります。

おてつだい大きくせんパート2
~もっとできることはないかな~
1ねん くみ ()

1 パート2でがんばりたいことをかきましょう。 11月22日

せんたくものたたみ

2 パート2でがんばることについて、おうちではなしたことをかいてもらいましょう。 11月25日

「めいしんに、どんなたたみかたをおしえてもらったのですか?おかあさんにもおしえてね。」と伝えました。 母より

~~~~~

3 おてつだい大きくせんパート2をしてみてもうどうだったかな? 月 日





## 活動例 2

「おてつだい大きくせんをしてみてくださいどうだったかな」



- 1 これまでの活動を振り返る。
- 2 家族からの手紙を読み、感じたことを書いたり発表したりする。

家の人から「ありがとう」と言われた時の気持ちや、これからのお手伝いについて考えたことを表現させたり、「ワークシートに書いたことや友だちと話したことを、家の人にも話してみよう」という課題を与えたりして、コミュニケーション能力の育成と意欲の継続化を図ります。

あゆみちゃんへ

あゆみちゃん、まい日、せんたくものを  
たんでくれて、ありがとう。しそがしい  
ときなど、とてもたすかります。

きがえやつくえのせいとんなども、ひと  
りでできるようになって、おかあさんは  
とてもうれしいです。

おかあさんより

感謝の気持ちを子どもに伝えることが大切であることを、保護者会や学級通信などで説明しましょう。

「ありがとう」「たすかった」という言葉によって、働く喜びを実感することができます。自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどを実感することで、もっとがんばろう、よりよく成長しようという気持ちをもつことができます。ちょっとした気配りや行動が社会でも通用することを伝えるのもよいでしょう。子どもが自信を積み重ねていけるよう、周囲の大人がかかわっていくことが大切です。

## 他の教育活動との関連

### 【道徳】

- 主として自分自身に関すること
- ・自分でできることは自分ですること
- 主として他の人とのかかわりに関すること
- ・家族の一員としての自覚をもち、お手伝いをする

### 【日常生活】

- ・ 係活動や当番活動、清掃など
- ・ 生活や学習における様々な役割の経験

## 指導と評価のポイント

- ・ 家庭との連携を図り、子どもの活動を見守り、感謝の気持ちを伝えたり、努力を認め励ましたりすることをお願いしておきます。

(例) 保護者会、学年・学級便りなどで、単元のねらいを説明する。

生活科で、「かぞくだいすき」という家族の役割を考える学習をしています。家族の役割を考え、家族に感謝する気持ちを育てたいと考えています。

自分が家庭でできそうな仕事を家でやってみよう指導していきます。はじめは上手にできないこともあるかと思いますが、そのときは「もう少しこうできるといいね」とアドバイスをあげてください。そして、「手伝ってくれてありがとう。たすかるよ。」と声をかけてあげてください。

- ・ 単元の学習は終わっても、折に触れて計画を立てさせたり、自己評価させたりすることにより、家庭での手伝いの継続化を図ります。

(例) ・冬休みのがんばりカードに、お手伝いの項目を設ける。  
・1年生の終わりの時期に、お手伝いについても振り返らせる。  
・2年生年度始めの目標カードにお手伝いの項目を設ける。

【事例5 音楽科】 「様子を思いうかべてアレンジしよう」(中学年)

グループで原曲をアレンジする活動を通して、自他のよさや表現の多様性に気付く

この題材は、音楽的諸要素に着目して楽曲をアレンジする活動を通して、音楽的な感受性や表現力を高めることをねらいとしています。アイデアを出し合って変奏し、音楽が変化する面白さを感じ取ることは、感受する能力が高まるとともに、自他のよさを認め合うことにつながります。

ねらい

旋律や歌詞からイメージを広げ、リズム、速度、拍子、強弱などを変化させて表現を工夫し、演奏することができる。

キャリア教育の視点

- ・ 自分たちの表現の工夫と他の班のよい点に気付き、認め合う。
- ・ 多くの人に親しまれてきた原曲のすばらしさに気付く。【自他の理解能力】

展開例

使用教材 「オーラリー」ジョージ プールトン作曲

主旋律、副次的な旋律を練習し、二重奏をする。

表現したい情景と妖精の様子を班で話し合う。(活動例1)

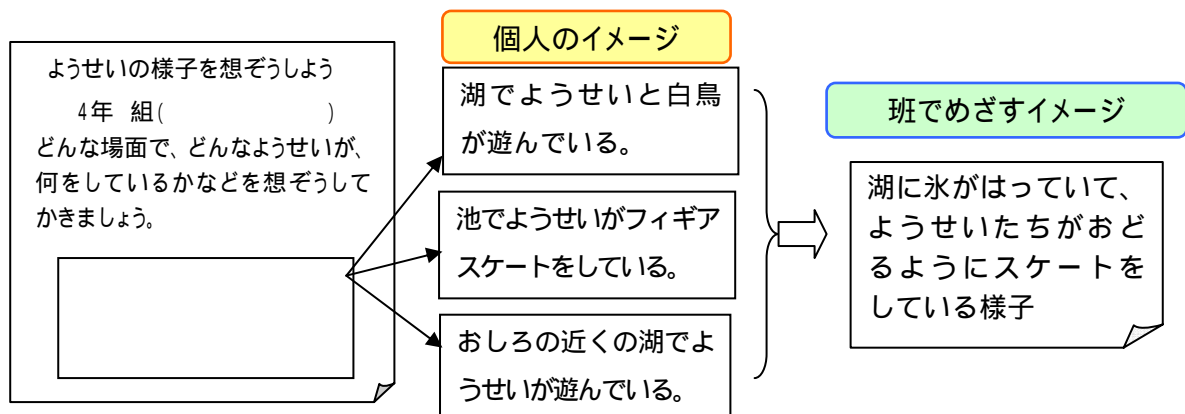
めざすイメージに向かって表現を工夫し、練習する。(活動例2)

アレンジした「オーラリー」を発表し鑑賞し合う。

活動例1 「ようせいの様子を想ぞうして、めざすイメージを決めよう」

どのようなイメージの曲にしたいかを記入したカードを持ち寄り、班で目指すイメージを話し合って決める。

一人一人の思いをできるだけ生かすために、教師は事前にカードを読み、同じようなイメージをもっている児童と一緒に活動できるよう班を編成します。

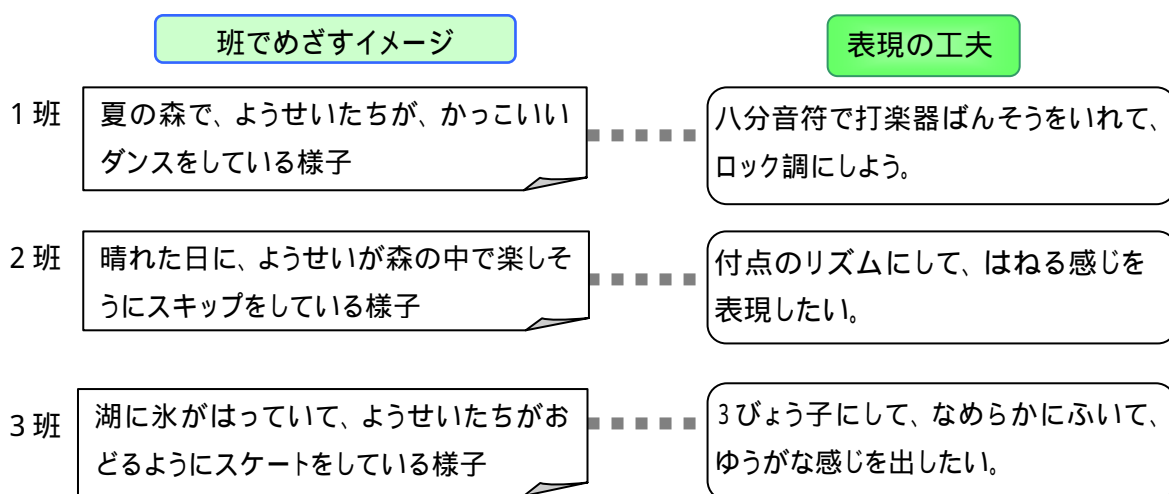


一人一人が書いたイメージを発表した上で、話し合うよう助言します。意見を生かせない場合でも、個人のイメージカードは学習の経過として残しておきます。

個人の意見をもち寄ってグループのイメージを決めるときには、身体表現や絵画に表すことで、イメージを具体化しやすくなります。また、音楽的諸要素による効果を知らせる授業を事前に行うことで、どんな表現の工夫があるかを考えてイメージを決める参考にさせることができます。

## 活動例2 「めざすイメージに向かって表現を工夫しよう」

グループで決めたイメージを音楽で表現するために、どの音楽的諸要素に着目して、どのように表現を工夫するかを話し合っって練習する。



イメージにより近付くようにアイデアを出し合っって演奏することは、感受性を高めるとともに、自他のよさの理解につながります。また、表現の工夫に焦点を当てて練習することにより、各班でオリジナルの演奏ができ、満足感を得ることが期待できます。

## 他の教育活動との関連

### 【道徳】

- ・主として自分自身に関すること
- ・主として他の人とのかかわりに関すること

### 【日常生活】

帰りの会での善行の発表、  
人間関係

## 指導と評価のポイント

- ・ イメージ作りの過程では、個人の思いを埋没させないために、一人一人が思い描いたイメージを出し合い、班で表現するイメージに生かすことを大切にします。
- ・ 原曲をアレンジする活動を通して、自分たちのオリジナルの曲ができた喜びを味わうとともに、一つの楽曲でも、工夫次第で個性的な演奏ができることを知り、表現することの楽しさに気付くことができます。アレンジした曲に個性が生まれることのよさと、様々なアレンジを可能にする原曲のすばらしさに気付くことは、多様な美しさをもった様々な音楽を尊重することにつながるものです。
- ・ アレンジした作品を鑑賞し合う場面では、演奏者が「イメージや工夫した点」を発表してから演奏する方法と、「イメージや工夫した点」を告げずに演奏し、聴き手のもったイメージと演奏者が意図したイメージを比べる方法があります。後者では、聴き手は、演奏者のイメージにとらわれず新鮮な気持ちで鑑賞でき、新たなイメージが生まれることが期待できます。

### 【鑑賞後の意見交換の例】

A：ワルツを踊っているような感じがしました。

T：なぜ、そう感じたのですか。

A：なめらかで、流れるように聴こえたからです。

B：ぼくも、踊っているように感じました。それは、3拍子だったからです。

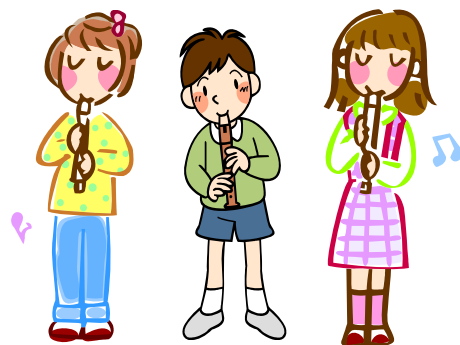
T：言われてみると、そのようにも想像できますね。では、3班の人から、イメージと工夫点を聴きましょう。

C：私たちのめざしたイメージは、「湖に氷が張っていて、妖精たちがスケートをしている様子」です。工夫した点は、3拍子にして、なめらかに吹いたことです。

T：3拍子にしたのは、誰のアイデアですか。

C：Dさんです。

T：Dさん、いいアイデアでしたね。Aさん、Bさんも表現のよさに気付き、様子を思い浮かべて聴けましたね。



## 【事例6 体育科】 「けんこうな生活」(中学年)

### 自分の生活を振り返り、健康によい生活の仕方を理解する

体育の授業は、体力の向上や健康の維持など、生活の基盤づくりに大きな役割を果たします。規則正しい生活をするためには、十分な睡眠や偏りのない食事、適度な運動といった基本的なことに加えて、「あいさつ」や「返事」、「家の手伝い」、「学習」や「読書」の習慣なども重要です。

#### ねらい

健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活の仕方が理解できるようにする。

- ・ 毎日を健康に過ごすためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。

キャリア教育の視点

- ・ あいさつや返事をする。【コミュニケーション能力】
- ・ 学習等の計画を立てて実行する。【計画実行能力】
- ・ 自分のことは自分で行い、自分の仕事に責任をもつ。【課題解決能力】

#### 展開例

生活カードを記入し、1日の生活について振り返る。(活動例)

- ・ 健康な生活を送るために大切なことを考え、話し合う。
- ・ 自分の生活について気付いたことを発表し合う。
- ・ 規則正しい生活について考える。
- ・ 自分の生活に当てはめて、生活のめあてを立てる。



生活調べを行い、結果を表にまとめて、リズムある生活について考える。

- ・ なぜ身の回りを清潔にしなければいけないのか考える。
- ・ 手についた細菌の資料などから手洗いの方法などを考え、話し合う。
- ・ 実践していくための計画を立てる。
- ・ 空気を入れ換えなかったり、部屋を暗くしたりして生活するとどうなるか考える。
- ・ 資料をもとに健康を守るためにどんな人がどんなことをしてくれているか考える。
- ・ 健康な生活について分かったことや気付いたことを書く。

### 活動例

生活カードを記入し、1日の生活について振り返る

振り返ったことが日々の生活に生かされるよう、自分の生活の様子をできるだけ具体的に記述させます。

(生活カードの例)

毎日どんなすごし方をしているかな。

自分の1日の生活を思い出して、いつもしていることに つけてみましょう。

|    | の<br>らん | いつもしていること              | がつけられないわけ                |
|----|---------|------------------------|--------------------------|
| 1  |         | 朝早く、きまった時間に一人で<br>おきる。 | おかあさんにおこされることが<br>多い。    |
| 6  |         | 元気にあいさつする。             |                          |
| 7  |         | すすんでべんきょうする。           |                          |
| 9  |         | 友だちとなかよく遊ぶ。            | 友だちと口げんかをしてしま<br>うことが多い。 |
| 12 |         | 家ぞくの人と話す。              |                          |

なかよく遊べないときの様子を、  
具体的に書かせています。

【 先生から 】

ともだちと口げんかをしてしまったときどうしたらよいか。口げんかしないようにするにはどうすればよいか、学級会で話し合ってみましょう。みんな  
で考えて、よいアイデアを見つけましょう。

その教科の授業だけで解決しようとせず、  
特別活動につなげようとしています。

### 他の教育活動との関連

【道徳】

主として自分自身に関すること

【日常生活】

日常的な様々な役割の経験、  
人間関係

### 指導と評価のポイント

- ・ 家庭や学校での生活全体を振り返らせることが大切です。
- ・ 人間関係形成能力、将来設計能力、意思決定能力の観点から、児童生徒の言動を把握していきます。(例:「あいさつ」、「言葉づかい」、「人間関係形成能力」の指標)
- ・ 特別活動と関連付けたり家庭と連携したりするなどして、指導を継続します。





## 道徳教育とキャリア教育との関連

### 社会性を伴う価値観形成を目的とし、教育活動全体を通じて行う

道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成することは、キャリア教育の視点からも重要です。道徳的価値や自他についての理解を深めていく中で、児童自らが成長を実感し、これからの課題や目標を見付けていくこと、また、自己や社会の未来に夢や希望をもち、よりよく生きようと努力することを支援する取組を、教育活動全体を通じて行っていくことが大切です。

### 道徳の内容項目は、いずれも生き方にかかわりキャリア教育につながる

道徳の内容項目は、いずれもよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指すという点で社会的自立に必要な能力・態度の育成につながるものです。また、例えば、「主として自分自身に関すること」と「主として他の人とのかかわりに関すること」は、人間関係形成能力の育成に深くかかわるなど、キャリア発達にかかわる能力・態度との関連も明確になります。

### 日常生活での様々な役割の経験をもとに、「道徳の時間」に自己の生き方を考える

小学校段階では、遊びや家での手伝い、学校での係活動、清掃活動、勤労生産的な活動や地域での活動等の中で、自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育てていくことが重要です。日常生活における様々な役割遂行の経験を積み重ねながら、内面的な価値形成に深くかかわる道徳の時間との関連を図ることで、自己の生き方を考えることができるようになっていきます。

社会性を伴う価値観の形成を目指す

道徳教育の目標

道徳性の育成

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

(「小学校学習指導要領 第3章 道徳」より)

道徳の内容構成の視点

- 1 主として自分自身に関すること。
- 2 主として他の人とのかかわりに関すること。
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。

キャリア発達

勤労観・職業観の育成

(例) 4つの能力領域

人間関係形成  
情報活用  
将来設計  
意思決定

学校教育全体を通じて行う

家庭

地域社会



【事例7 道徳の時間】 「希望をもって」(高学年)

総合単元的な道徳学習を通して目標の実現に向けて努力しようとする実践力を高める

夢の実現を目指して努力する人の姿や働く人の姿を通して、真剣に取り組むことの大切さや将来について考え、自己の可能性を広げるために学習や生活を充実させていく力を高めていくことが望めます。道徳の時間を中心に、教科、特別活動、総合的な学習の時間を関連させた学習を展開することで、将来の生き方につながる価値についての自覚を深めるとともに、日常生活の中でも意識して取り組むことが期待できます。

ねらい

より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。1 - (2)

キャリア教育の視点

- ・ 将来のことを考える大切さがわかる。【将来設計能力】
- ・ 将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。【意思決定能力】
- ・ 話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。【自他の理解能力】

展開例

| 学 習 活 動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 活動への支援・留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 資料・準備                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 事前の学習で目標をもって努力している人について調べたことを振り返る。</p> <p>2 資料「祥雲寺のしだれ桜」を読んで話し合う。<br/>T 25年間もの間、祥雲寺の桜をよみがえらせる仕事を続けてきた佐藤さんを支えたものは、何だったのでしょうか。</p> <p>(1)一人で考え、ワークシートに書く。<br/>・ 仕事を任された責任感<br/>・ 最後まであきらめない粘り強い心</p> <p>(2)グループごとに話し合う。<br/>・ 桜をよみがえらせたいという希望<br/>・ 住職や多くの人のしだれ桜への思い<br/>・ 自分の経験や技術を信じる心<br/>・ 強い生命力をもった桜を守りたい気持ち<br/>・ よみがえっただれ桜を見たいという希望</p> <p>(3)発表をもとに全体で話し合う。<br/>・ 佐藤さんも田村亮子選手も、周りの人の励ましを支えとなっていた。<br/>・ 佐藤さんもイチロー選手も、自分の力を信じてチャレンジしているところが似ている。</p> <p>3 佐藤さんの話のVTRを視聴する。</p> <p>4 自分を振り返り、自分の夢や目標、これからの取組について考える。<br/>T 心のノートに書いた自分の目標や夢を実現するために、これからの自分はどうしていきたいかを考えて書きましよう。<br/>・ 今まではすぐにあきらめてしまっていたので、これからはあきらめないでがんばりたい。<br/>・ 夢を実現するために今自分ができることの一つ一つに全力で取り組んでいきたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標に向かって努力してきた人について調べたことを思い出すことで、ねらいとする価値への方向付けをする。</li> <li>・ 自分が調べた人と佐藤さんを比べながら考えられるよう助言し、学習の見通しが立てられるようにする。</li> <li>・ 佐藤さんが出会った困難や苦労について確認してから、話し合いに入る。</li> <li>・ 小グループでの話し合いを通して、道徳的価値の内面的自覚を深めさせる。【コミュニケーション能力】</li> <li>・ 話し合いの中で、自分と友だちとの考えの相違点があっても、理解するために質問をするなどして、互いの考え方に共感できるようにさせる。【自他の理解能力】【コミュニケーション能力】</li> <li>・ 共感できる考えについては自分のワークシートに記入させ、考えを深めることができるようにする。</li> <li>・ 事前の学習で自分が調べた人と佐藤さんとを比べ、その共通点を見出すことで、より深く道徳的価値について考えられるようにする。【情報活用能力】</li> <li>・ 撮影してきた佐藤さんの話を視聴させることにより、目標に向かって希望をもって努力していこうとする気持ちを高めたい。</li> <li>・ 佐藤さん、自分が調べてきた人、自分のそれぞれの生き方を比較して、今までの自分はどうか、これからの自分はどうしていきたいかを考えさせ、心のノートに記入させることで、実践への意欲を高める。【将来設計能力】</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心のノート</li> <li>・ 調べ学習プリント</li> <li>・ 祥雲寺のしだれ桜の写真</li> <li>・ 佐藤さんの写真</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ 調べ学習プリント</li> <li>・ 心のノート</li> <li>・ 心のノート</li> </ul> |

具体的な能力・態度を意識して指導に当たることによって、それぞれの学習活動のねらいが明確になり、適切な支援につながります。

## 他の教育活動との関連

|                                                                                                   |                                                                                                                          |                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学級活動<br/>「5年生になって」<br/>・学級や学校生活の充実を目指して話し合う</p>                                                | <p>道徳 1 - ( 6 )<br/>・自分の特徴を知って、よいところを積極的に伸ばす。</p>                                                                        | <p>総合的な学習<br/>「地域の文化遺産を知ろう」</p>                                                               |
| <p>学校行事「運動会」<br/>・目標に向けて努力するとともに、高学年としての役割を果たす。</p>                                               | <p>道徳 1 - ( 2 )<br/>「最高で金メダル、最低でも金メダル」<br/>・より高い目標を立て、その実現のために自分のもっている力を精一杯発揮して、努力しようとする意欲を高める。</p>                      | <p>・祥雲寺のしだれ桜を見ながら住職の話や聞くことにより、しだれ桜の生命力の強さやその美しさを感じるとともに、長年にわたり桜を守り育ててきた地域の人々の思いや努力について知る。</p> |
| <p>教科<br/>・国語の漢字練習や図工や家庭科の作品作り、体育の泳力認定など、目標を達成したりよりよいものを作り上げたりする喜びや大切さを学ぶ。</p>                    | <p>個別学習<br/>「目標や夢を実現するために努力している人について調べよう」<br/>・家族や地域の人に取材をしたり、伝記などを読んだりして、いろいろな人の生き方や考え方について調べる。</p>                     |                                                                                               |
| <p>本 時 主題名 「希望をもって」 1 - ( 2 )<br/>資料名 「祥雲寺のしだれ桜」(自作資料)<br/>ねらい 目標を立て、希望と勇気をもって取り組もうとする心情を育てる。</p> |                                                                                                                          |                                                                                               |
| <p>教科<br/>・体育のなわとび認定や持久走大会などで自分の目標に向かって努力していくことの大切さを学ぶ。</p>                                       | <p>学級活動<br/>「友達の輝きをみつけよう」<br/>・自分の目標や夢を自由に語り合いながら、友達相互の信頼感を深めていく。</p>                                                    | <p>総合的な学習<br/>「世界遺産日光を知ろう」<br/>・世界遺産がどのように守られているのか、その様子や人々の苦勞、願い、夢などについて調べる。</p>              |
| <p>児童会活動<br/>・全校児童集会の企画運営を行うことを通して、自主的な態度や実践力を高める。</p>                                            | <p>総合的な学習の時間 「 小のよきリーダーになろう」<br/>・学校生活のリーダーとしての仕事や心がまえを学ぶとともに、6年生を送る会の企画運営を行う活動を通して、役割を果たすことや目標に向かって努力していくことの大切さを学ぶ。</p> |                                                                                               |

## 指導と評価のポイント

授業で学んだことを、家庭や学校における日常生活の中で意識して実践できるよう、指導を継続していくことが大切です。

- ・朝の会の1分間スピーチで自分が今がんばっていることなどを話題にしたり、学級活動で自分の夢について語り合う時間を設けたりして、目標に向けて努力していけるよう支援する。
- ・授業で書いたワークシートや心のノートを持ち帰り、夢や目標について、またそれに向かって努力することについて家族と話し合い、感想などを書くように促す。

本時の資料だけではなく、自ら情報を収集・探索することを通して、様々な人の考えや生き方を知ることができるよう指導します。



## 【事例 8 日常的な生活場面】 「働くことはだれのため」(中学年)

### 日常生活における役割の経験を通して働くことへの意識を高める

働くことは、自分を成長させると同時に、人の役に立つことでもあります。日常生活の様々な場面で働く経験を重ねることによって、家庭や学級における自分の役割に気付き、家族や友達との絆を深めたり人の役に立つことのできる自分を感じたりして、働くことへの意識を高めるとともに、自分にできることを見つけ、進んで取り組むことができるようになります。

#### ねらい

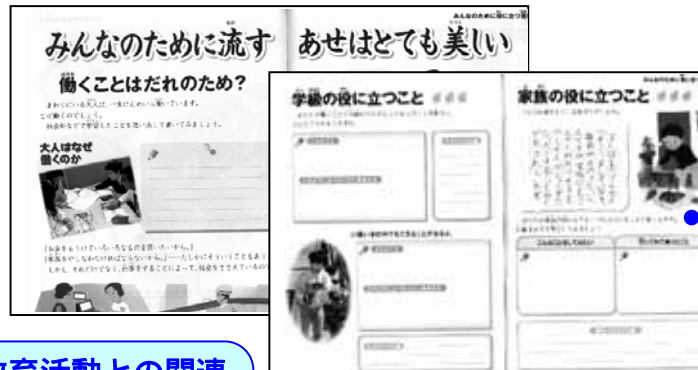
働くことの大切さを知り、進んで働く。4 - (2)  
自分でやろうと決めたことは粘り強くやり遂げる。1 - (3)

キャリア教育の視点

- ・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。【役割把握・認識能力】
- ・係や当番活動に積極的にかかわる。働くことの楽しさが分かる。【職業理解能力】
- ・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。【課題解決能力】

#### 展開例

これまでの経験を振り返ったり、友だちと話し合ったりして、家庭や学級で自分のできることを「心のノート」に書く。



保護者からの感想や励ましの言葉を記入してもらうなどして、家庭での役割や決まりを守ることが、学校における様々な立場や役割への積極的な取組につながっていくようになります。

#### 他の教育活動との関連

##### 【社会科】

- ・生産や販売にかかわる仕事
- ・人々の安全を守る仕事の工夫や努力

##### 【日常生活】

- 様々な役割の経験
- ・当番の仕事や係活動
- ・清掃や奉仕作業

#### 指導と評価のポイント

- ・それぞれの立場において役割を果たしていくことが自分にとってどういう意味や価値をもつのかということを考えさせ、働くことへの意識を高めていくようにします。
- ・実践したことを、随時、記入させることにより、決められた係活動や当番の仕事以外にも進んでできることを見つけたり、視野を広げたりできるようにします。

キャリア発達にかかわる諸能力と関連の深い内容項目

|                                | 道徳の内容                                      |                                                                 |                                                                                           | キャリア発達にかかわる諸能力               |
|--------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
|                                | 第1・2学年                                     | 第3・4学年                                                          | 第5・6学年                                                                                    |                              |
| 1<br>自分自身に<br>関すること            | (2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。           | (3) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。                                    | (2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。<br>(6) 自分の特徴を知って、悪い所を改め、よい所を積極的に伸ばす。                   | 人間関係形成能力<br>将来設計能力<br>意思決定能力 |
| 2<br>他の人との<br>かかわりに<br>関すること   | (1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。      | (1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。                                 | (1) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。                                                             | 人間関係形成能力                     |
|                                | (3) 友達と仲よくし、助け合う。                          | (3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。                                         | (2) だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。<br>(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。                | 人間関係形成能力                     |
|                                | (4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。                    | (4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。                           | (5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。                                             | 人間関係形成能力                     |
| 4<br>集団や社会<br>とのかかわりに<br>関すること | (1) みんなが使う物を大切にし、約束やきまりを守る。                | (1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。                                        | (1) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。<br>(2) 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。 | 人間関係形成能力<br>意思決定能力           |
|                                | (2) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。 | (2) 働くことの大切さを知り、進んで働く。<br>(3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。 | (4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。<br>(5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。   | 人間関係形成能力<br>将来設計能力<br>意思決定能力 |

道徳の内容項目は、児童生徒の発達段階などを考慮し、最も指導の適時性のある内容を学年段階ごとに精選し、重点的に示したものです。したがって、項目間の関連性をもたせるとともに、低学年から中学年、高学年、さらに、中学校への発展を考慮し、計画的、発展的な指導を行うことによって、児童生徒のキャリア発達を効果的に支援することができます。



## 特別活動



### 特別活動とキャリア教育との関連

特別活動の目標は、キャリア教育が目指す職業観・勤労観の育成と深い関連がある

特別活動は、学校や学年や学級という集団活動を通して協調、責任、役割、貢献を学び、社会参画の力や人間関係形成の力を育てる領域です。特別活動の目標である「心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」ことは、キャリア教育の目指す能力・態度と深い関連があり、学級活動や勤労生産・奉仕的行事など、キャリア教育と共通する内容が数多くあります。

社会性の育成は、社会的な自立を目指すキャリア教育のねらいと一致する

社会性は、集団生活において、児童一人一人が自分の役割や責任を果たすことにより、確かなものとして身に付いていきます。豊かな社会性を身に付けるためには、児童が互いの特性を認め合う中で、与えられた役割を自覚し、責任をもって仕事を果たす経験を積み重ねていく場や機会が必要です。協力して身の回りの諸問題を解決しようとする意欲を高めたり、問題解決に必要な知識や技能を身に付けたりできるよう、発達段階に応じた指導の充実が望まれます。

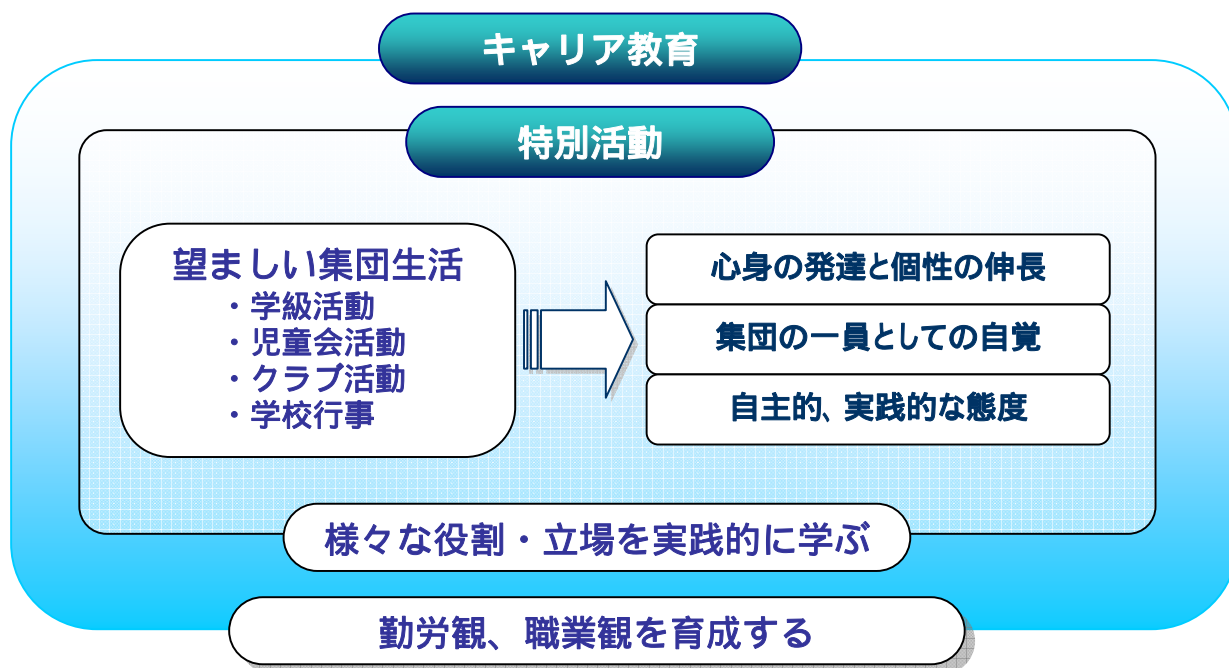
自主的・自治的に問題を解決する特別活動の内容は、キャリア教育実践の核になる

特別活動は学級や学校という集団の中で発生してくる生活上の問題を自主的、自治的に解決することを主な学習内容としています。児童にとって学校は生活の場であり、解決しなければならない問題は身の回りの現実的な問題です。

児童一人一人がこれまでの経験を生かし、それぞれの力を発揮し、望ましい集団活動を通して、教え合い、学び合い、助け合いながら実践的に取り組むことができるよう、支援することが大切です。



## 特別活動とキャリア教育



### 特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

(「小学校学習指導要領 第4章 特別活動」より)

### 特別活動の内容

#### 学級活動

学級を単位として、学級や学校の生活の充実と向上を図り、健全な生活態度の育成に資する活動を行う。



**児童会活動**  
学校の全児童をもって組織する児童会において、学校生活の充実と向上のために諸問題を話し合い、協力してその解決を図る活動を行う。



**クラブ活動**  
学年や学級の所属を離れ、主として第4学年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて、共通の興味・関心を追求する活動を行う。



**学校行事**  
全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行う。

## 【事例9 児童会活動】 「運動会の成果をこれからの生活に生かそう」(全学年)

### 運動会への取組について振り返り、体験を通して学んだことを学習や生活に生かす

学校行事や集会活動などの体験を振り返って、自分を見つめたり、喜びや気付きを語り合ったりして互いの体験を共有することは、自他のよさに気付くとともに、集団の一員としての自覚を深め、実践力の向上につながるものと考えられます。体験を通して学んだこと、努力してやり遂げた感動とその力を日常の生活や学習に役立てることができるよう、事後の活動や指導の内容を工夫します。

#### ねらい

児童集会への主体的な取組を通して、自主性と社会性を養い、個性の伸長を図る。

#### キャリア教育の視点

- ・ 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たす。【コミュニケーション能力】
- ・ 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解する。【職業理解能力】
- ・ 目標の実現やよりよい生活を目指して努力しようとする。【課題解決能力】

#### 展開例

全校児童が体育館に集まり、録画した運動会の準備、練習、当日の様子を視聴する。代表の児童が自分の取組や学んだことを発表し、他の児童にも発言を呼びかける。運動会を振り返り、がんばったことやうれしかったこと、これからの生活に生かしたいことなどを発表し合う。

全校集会の場で自分の思いや決意を語って、他者に聞いてもらう体験を通して、学校の一員としての所属感や自己肯定感を高めます。



- ・ 運動会でがんばったことやうれしかったことを教えてください。
- ・ 運動会で学んだことをこれからの勉強や生活にどのように生かそうと思いますか。
- ・ 新たな目標やがんばろうと思うことはありますか。
- ・ これからどんなことに取り組みますか。

初めて、応援団に入って、5年生や6年生と一緒に大きな声で応援しました。自分は赤組だから、赤組が勝つと応援が通じたみたいですごくうれしかったです。応援合戦でほかの色にエールをおくるのも気持ちがよかったです。応援すると自分も元気になります。これからは、自分のクラスだけでなく、1年生や2年生と遊んだり、いろいろ教えてあげたりしたいです。





## 他の教育活動との関連

### 【特別活動】

- ・ 学校行事「運動会」
- ・ 学級活動

### 【国語】

- ・ 伝え合う力

### 【道徳】

- ・ 主として自分自身に関すること
- ・ 主として集団や社会とのかかわりに関すること

### 【図画工作】

- ・ 心に残ったことを表現する

### 【日常生活】

- ・ 当番の仕事や係活動
- ・ 清掃や奉仕作業

## 指導と評価のポイント

- ・ 「自分たちの集会である」という思いをもって活動できるよう、集会の計画・準備・運営等はできるだけ児童に任せるようにします。
- ・ 教師は、低学年・中学年・高学年の発達課題と育成を目指す能力を意識して指導に当たり、児童が、自主的・自発的な活動を通して、立場や役割についての自覚を深めたり協力して活動に取り組んだりできるよう支援します。

### （例）【役割把握・認識能力】

低学年・・・割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。

中学年・・・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。

高学年・・・仕事における役割の関連性や変化に気付く。

異年齢集団の活動に進んで参加し、役割や責任を果たそうとする。

- ・ 努力してやり遂げた達成感や協力することの楽しさ、他者に認められる喜びを実感することは、肯定的な自己理解や自己有用感につながり、自信になります。
- ・ 道徳の時間に、体験を想起したり自分の生活を振り返る場面を設けたりして、内面化を図ります。作文や振り返りカードに整理して記録に残すことも、感動や充実感を再構成させるのに有効です。
- ・ 集会の様子や児童の作文を学校便りや掲示物等で紹介し、保護者や地域の人の感想を児童にフィードバックしたり、卒業生を招いて小学校時代の経験がどのように役立っているかなどということについて話を聞いたりするのもよいでしょう。



【事例 10 学級活動】 「自分を見つめよう」(中・高学年)

友達との交流を通して、自己理解を深め、自己の可能性を広げる

夢や希望、憧れる自己イメージを獲得することは、自分の将来に対して前向きに考え、積極的に行動することにつながります。友達との交流を通して、自己への気付きや自己決定を促すとともに、好ましい人間関係の醸成に努めます。

ねらい

自己を見つめる活動を通して、自己の理解を深め個性の伸長を図る。  
(学級活動の内容(2)(ア)希望や夢をもって生きる態度の育成)  
キャリア教育の視点  
他者の多様な個性を理解し、自己理解を深め、互いに認め合うことを大切にして行動する。【自他の理解能力】  
・自分のよいところを見付ける。  
・友達のよいところを認め、励まし合う。

活動例 1 「自分の“好き”を見つける」

1 次の質問について思い付くことを書く。

好きな食べ物は何ですか？  
好きな音楽はどんな音楽ですか？  
好きなスポーツは何ですか？  
好きな科目は何ですか？  
尊敬している人、好きな人は誰ですか？  
自分が笑顔になったり、うれしくなるのはどんなときですか？  
自分が笑顔になったり、うれしくなるのはどんな場所ですか？  
自分が笑顔になったり、うれしくなるのはどんな人と一緒にいるときですか？  
今までにあった一番うれしかったことは何ですか？  
自分のどんなところが好きですか？  
どんなことが得意ですか？  
どんな人に憧れ、自分もなりたと思いますか？



教師が質問を読み上げて、答えをノートに書かせるほか、「心のノート」を活用したり、ワークシートを作成して記入させたりしてもよいでしょう。

2 二人組みで、好きなものを聞き合ったり、発表したりする。  
どのような答えも共感的に受け止め、違いを認め合うよう助言します。

活動例2 「自分のイメージを探る」

- 1 「自分は です」の に、自分で自分のことをどう思っているかを書く。
- 2 自分が書いた一つ一つのイメージに、プラスイメージ(+)またはマイナスイメージ(-)の印を付ける。
- 3 マイナスイメージをプラスイメージに書き換える。  
 プラスの言葉に書き換えることが難しい児童には、具体的な場面を思い出したり、友だちの考えを聞いて参考にしたりするとよいことを助言します。

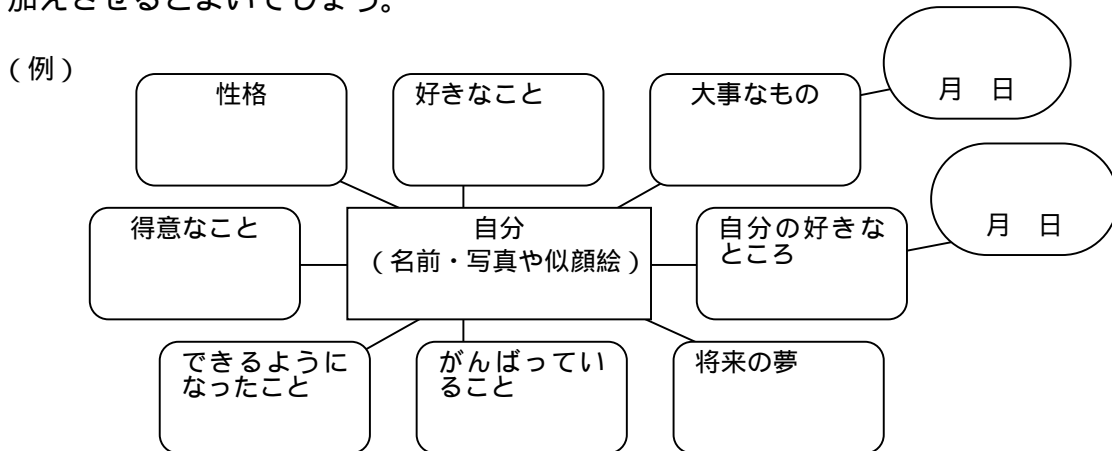
自分のイメージをさぐろう  
 自分で自分のことをどう思っているか書いてみましょう。

| 「自分は  です」を書く                 | プラスイメージ(+)<br>マイナスイメージ(-) | プラスイメージに書きかえる      |
|------------------------------|---------------------------|--------------------|
| (例) 自分は、まじめです<br>自分は、おとなしいです | +<br>-                    | やさしい、              |
| 自分は、 <b>せっかち</b> です          | -                         | <b>時間を大切にする</b>    |
| 自分は、 <b>やさしい</b> です          | +                         |                    |
| 自分は、 <b>おしゃべり</b> です         | -                         | <b>場をもりあげる</b>     |
| 自分は、 <b>おこりっぽい</b> です        | -                         | <b>ストレスをためこまない</b> |
| 自分は、 <b>動物が好き</b> です         |                           |                    |
| 自分は、  です                     |                           |                    |

マイナスのイメージをプラスに書き換える作業を通して、同じことでも、見方によってずいぶん違ってくものだという事に気付くことができます。肯定的なものの見方や考え方は、社会に出てからも役立ちます。



- 4 自分についてのイメージマップを作成する。  
 自分の成長や変化を感じることができるよう、項目や具体的な内容は、随時、書き加えさせるとよいでしょう。



## 他の教育活動との関連

### 【道徳】

主として自分自身に  
関すること

### 【日常生活】

日常的な様々な役割の経験、  
人間関係の構築

### 【図画工作】

見たこと、感じたこと、  
想像したことを絵や立  
体に表す

## 指導と評価のポイント

- ・ 共感的な言葉や問いかけ、友達との交流などを通して、自分自身への気づきを引き出し、自覚化させていくことが重要です。
- ・ 自分に対するイメージを固定的にとらえるのではなく、視点を変えてみたり、新たな気づきや事実を書き加えさせたりするなどして、このような人になりたいという自己の可能性を広げることができるようにします。

### (言葉かけの例)

- ・なるほど。いいね！　すごいね！　かっこいいね。
- ・うれしいな。　　が喜ぶね
- ・よく知っているね。　もうこんなにできたんだ。
- ・それで大丈夫だよ。　できることからでいいよ。　自分のやり方でいいんだよ。
- ・やると決めたらできると思うよ。　自分で決めたとおりに進めてごらん。



### (問いかけの例)

- ・今、気になっていることは何？　今、どんなことを感じている？
- ・……してみようと思った？
- ・次に何をしたい？
- ・何をしているときが一番楽しい？
- ・あなたにとって大切なものは何？
- ・そのことについてもっと話して。
- ・よく知っているね。どうして知っているの？
- ・未来(　年後、　才)のあなたは、何をしているかな？
- ・そのときの自分や周りの人はどんなようすかな？
- ・どんな　　になりたいの？(どんな　　だったら素敵だと思う？)
- ・どんな社会に住みたい？
- ・大人になったときに、地球はどうなっていてほしい？日本(あなたが住んでいる町)はどうか？
- ・夢をかなえるために何をします？

- ・ 自分をじっくり見つめ、人とのかかわりの中で自己認識を深めていくことは、より具体的な進路指導が要求される中学校においての、「自分を見つめる」ことや「自分と社会とのかかわりを考える」指導に深く結び付きます。

## 総合的な学習の時間



### 総合的な学習の時間とキャリア教育との関連

#### 総合的な学習の時間とキャリア教育のねらいは一致する

総合的な学習の時間のねらいには、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断すること」や「問題の解決や探求的活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」が示されています。これらは、「社会の一員として自立的に自己の人生を方向付ける」というキャリア発達を中心になる考え方に直結します。

教科指導においては、キャリア教育との関連を限定的にとらえがちですが、総合的な学習の時間を活用することで、より広くキャリア教育を展開することができます。

#### 地域の大人の姿を見せ、様々な活動をしている大人とかかわる機会を生かす

年齢や価値観が異なる他者とかかわり、様々な考え方や生き方があることを知ることは、学ぶことの意義を再確認し、進路や生き方についての選択肢を広げることになります。地域には、ボランティアとして仕事をしている人もいれば、趣味を生かして活動している人、社会的な役割をもって生きている人など、様々な人がいます。総合的な学習の時間には、そうしたいろいろな大人の姿を児童が見て、直接かかわる場面を設けたいものです。仕事やその人の生き方に触れて、自分もそうなりたと思うなど、大人と自分の生き方を結び付けて、現在や将来について考えることのできる絶好の機会です。

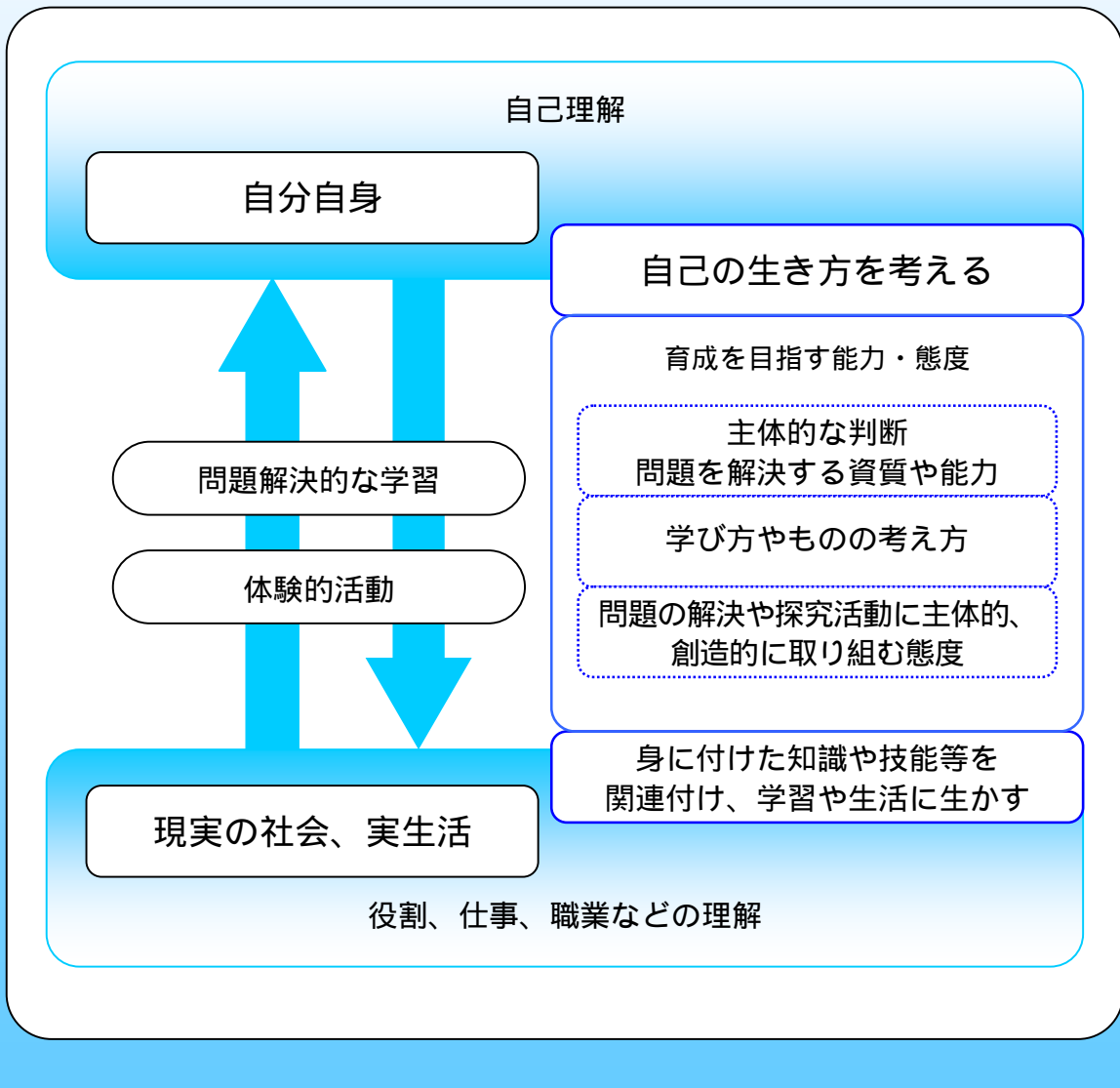
#### 活動のねらいをはっきりさせ、教師と児童が体験の意義を理解して取り組む

「勤労観・職業観の育成」の意味を狭くとらえ、総合的な学習の時間に、新たに職業に関する体験的活動を取り入れることでキャリア教育とすることのないよう気を付けましょう。これまでの実践の成果を確認し、児童が人や社会に働きかけ、自分で調べたり考えたりして、学び取ったことを自分なりに意味付けることが大切です。総合的な学習の時間で職場見学や体験等を行う場合には、キャリア発達の能力・態度の育成という視点を踏まえ、活動のねらいを明確にして内容や方法を検討します。体験の意義や重要性を理解した上で、勤労観や職業観を育成する一つの道具や場面として活用するという考え方が必要です。

### 総合的な学習の時間のねらい

- (1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- (2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。
- (3) 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。

(「小学校学習指導要領 第1章 総則」より)





【事例 11 総合的な学習の時間】 「地域で働く人から学ぼう」(中学年)

地域の人とのかかわりを通して、実社会に触れ、働くことの喜びや意味について考える

地域の人々とは、運動会や地域の祭りなどで出会うことはありますが、働く姿に触れる機会は意外に少ないものです。児童が地域に出て学習をする場合は、農家や工場などの見学というスタイルが一般的ですが、農産物の直売所のような受け入れ先が見つかれば、手伝い程度であっても、ぜひ、児童に体験させたいものです。

ねらい

地域の人とのかかわりを通して、ものを作る仕事や売る仕事に携わる人々の思いや願いに共感できる。

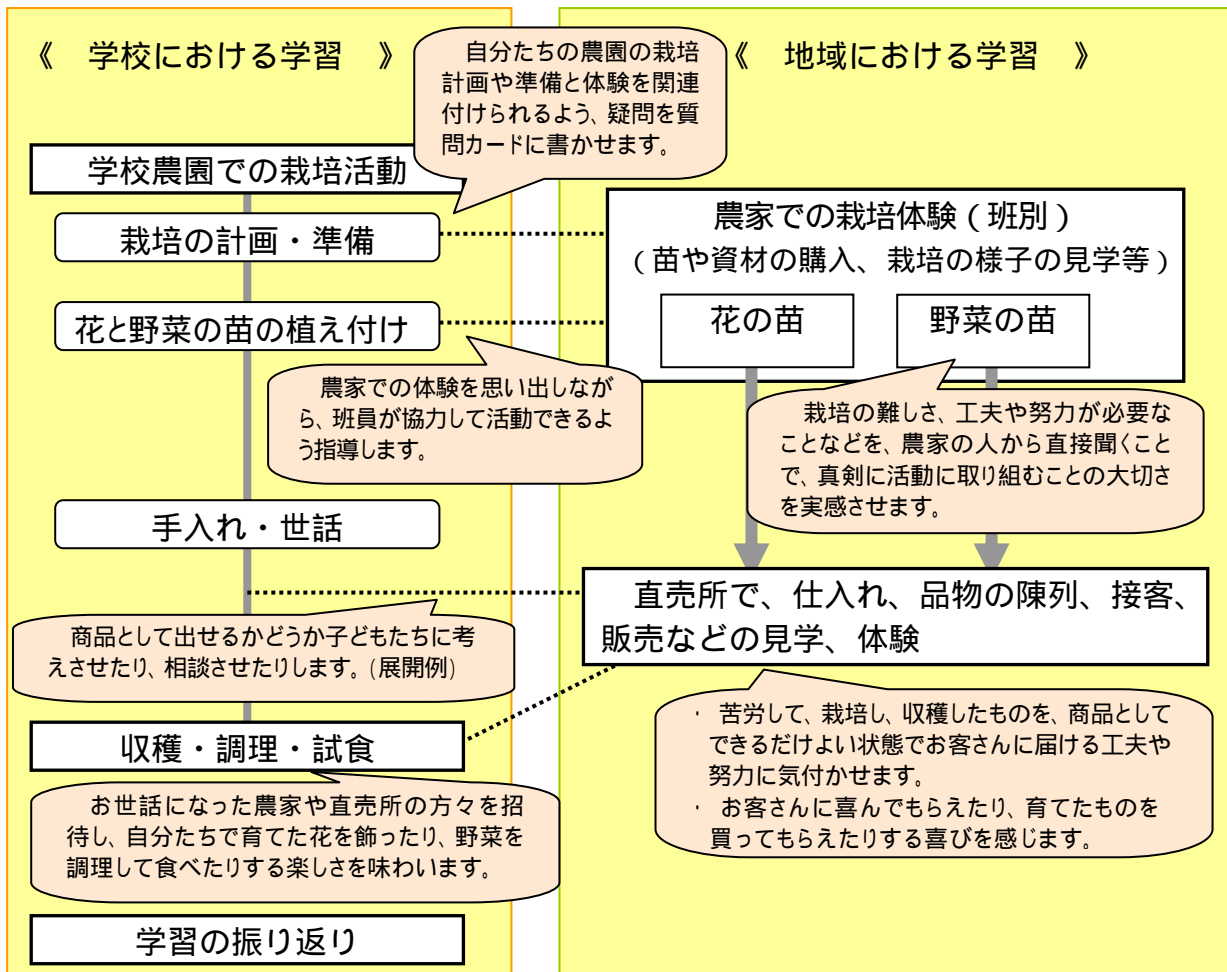
栽培から販売までの過程の工夫について進んで調べることができる。

キャリア教育の視点

- ・ 栽培から販売活動までを体験することを通して、働く中で工夫したり努力したりすることの大切さや、働くことの喜びを知る。【情報活用能力(職業理解)】
- ・ 農家や直売所の方の話の聞いたり、ふれあったりすることにより、農家の仕事や農産物を守る仕事に関心をもつ。【コミュニケーション能力】

展開例

学校での学習と地域での体験を並行して進めます。





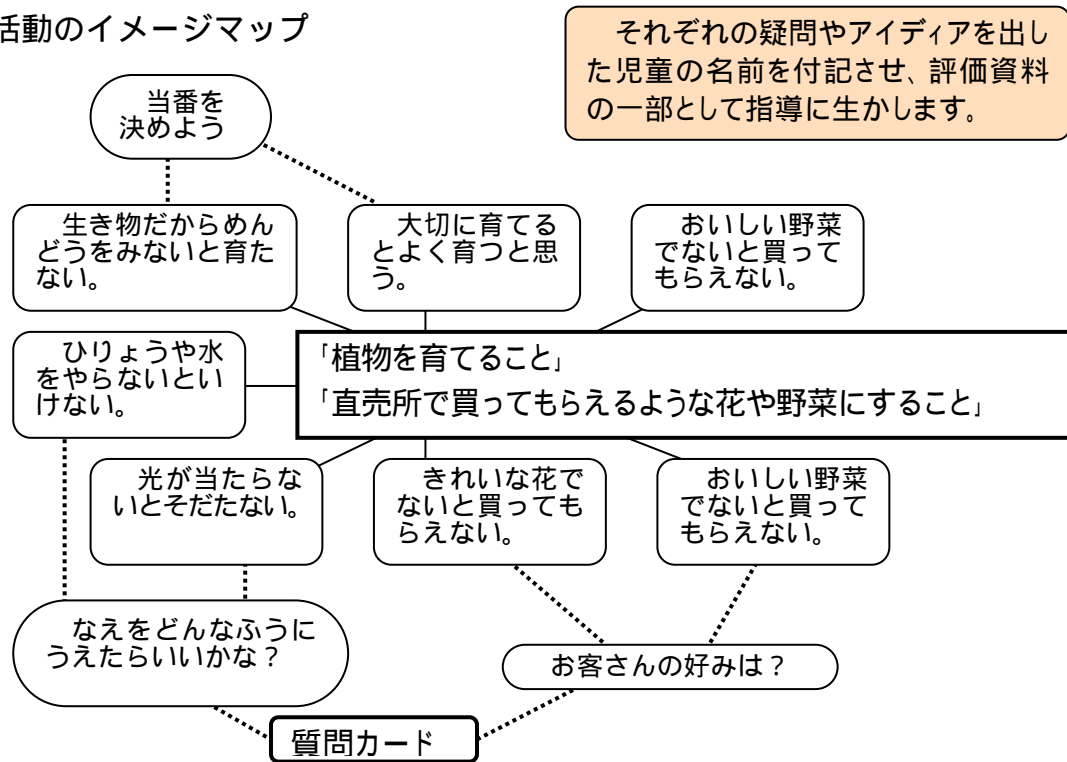
## 活動例

「育てた花や野菜を売ること」について意見を出し合う。

栽培と販売の両方の課題を関連付けてイメージマップを作成する。

項目や具体的な内容は、随時、書き加えさせるなどして、自分たちの気付きの変化や成長を感じることができるようにします。

### (例) 活動のイメージマップ



### 他の教育活動との関連

#### 【道徳】

- 主として自分自身に関すること
- 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる
- 主として他の人とのかかわりに関すること
- 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する
- 主として集団や社会とのかかわりに関すること
- 働くことの大切さを知り、進んで働く

#### 【日常生活】

日常的な様々な役割の経験、人間関係

### 指導と評価のポイント

- 校内での活動と地域での活動との関連を図れるように、農家や直売所の方と事前に時間を設けて話し合い、例えば、児童との対話を重視している点など、指導のポイントを確認します。【コミュニケーション能力を活用(駆使)させる】
- 「花や野菜を大切に育てなければならないこと」と「直売所で販売できるような商品にすること」の両方の課題に児童を向き合わせて、農家の人の仕事の工夫や努力をより実感させることを重視して学習を展開します。【職業理解能力を高める】

- 本單元には、生産と販売という働くことをめぐる現実社会の課題を意識させながら、従来から多くの学校で行われている学校農園での活動を再評価するねらいがあります。働くことの厳しさや難しさは、活動を通して気付くものであり、評価については、地域の人々とどれだけ対話できたか、あるいは現実社会の課題に向かったどのようにチャレンジできたかを重視します。

#### 育成を目指す能力・態度と評価規準の例

| 活動                  | 育成を目指す能力・態度                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 評価規準                                                                                                                                | 評価資料             |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 栽培の計画準備             | <p>情報活用能力<br/>【情報収集・探索能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。</li> </ul> <p>人間関係形成能力<br/>【コミュニケーション能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達と協力して、学習や活動に取り組む。</li> </ul>                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>班で話し合っ、アイデアを出し合っ、学校農園での栽培のめあてを決めたり、工夫を考えたりする。</li> </ul>                                     | 活動のイメージマップ       |
| 農家での栽培体験、学校農園での栽培活動 | <p>情報活用能力<br/>【情報収集・探索能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。</li> </ul> <p>人間関係形成能力<br/>【コミュニケーション能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。</li> </ul>                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの考えていたことと、農家の栽培の実際との違いに気付く。</li> <li>対話やインタビューを通して、農家の人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。</li> </ul> | 体験学習シート          |
|                     | <p>将来設計能力<br/>【計画実行能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画づくりの必要性に気付き、作業の手順が分かる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>農家の人から教わったことや学んだことを、栽培の計画や準備、世話や手入れに生かそうとする。</li> </ul>                                      | 栽培計画シート          |
|                     | <p>情報活用能力<br/>【役割把握・認識能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いの役割や役割分担の必要性が分かる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>班で当番を決めて、世話や手入れをする。</li> </ul>                                                               | 栽培記録シート<br>当番ノート |
| 直売所での見学・販売体験        | <p>情報活用能力<br/>【職業理解能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働くことの楽しさが分かる。</li> <li>係や当番活動に積極的に関わる。</li> </ul> <p>【役割把握・認識能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いの役割や役割分担の必要性が分かる。</li> </ul> <p>人間関係形成能力<br/>【コミュニケーション能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの考えていたことと、直売所での販売の実際との違いに気付く。</li> <li>直売所の人との対話や、お客さんとの応対に前向きに取り組もうとする。</li> </ul>      | 体験学習シート          |
| 学習の振り返り             | <p>情報活用能力<br/>【役割把握・認識能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。</li> </ul> <p>人間関係形成能力<br/>【自他の理解能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活を支えている人に感謝する。</li> </ul>                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校農園での栽培や地域での学習を振り返り、気づいたこと、学んだこと、実感したこと、感謝したことなどをまとめる。</li> </ul>                           | 振り返りシート          |

人とのかかわりの中で学び、  
身に付けたことが活かされる機会を設けましょう。



## 第3章

# 学校全体で取り組みましょう

### 実践編 2

キャリア教育の視点を生かして学校全体で取り組む

小学校において、キャリア教育の視点で教育課程を見直すための考え方を示しました。

キャリア教育の推進や計画立案など、学校全体としての取り組みについて考える際の参考にしてください。

## Q8

学校全体での取組にしていくためには、どのようにすればよいのですか？

A 8

学校全体で取り組むという方針を明確にし、教職員が、「全体で目指すことは、自分が目指す(実現させたい)ことである」という意識をもって実践できるよう、校内体制を整備します。

一人一人の教師が自らの力を高め、教育効果をあげるためには、学校が組織体として力を発揮する必要があります。

「キャリア教育はゼロからのスタートではない」「これまでに取り組んできたことを、児童一人一人のキャリア発達を促すという視点で見直すことで実践できる」という共通の認識に立つことが重要です。



### 組織的に取り組むポイント

Step  
1

自校の現状把握やビジョンの構想をテーマに、校内研修やミーティングを行って、キャリア教育についての理解を深める。

Step  
2

学校の実情に合わせて推進チームを編成し、自校のキャリア教育推進のビジョンを明確にする。

Step  
3

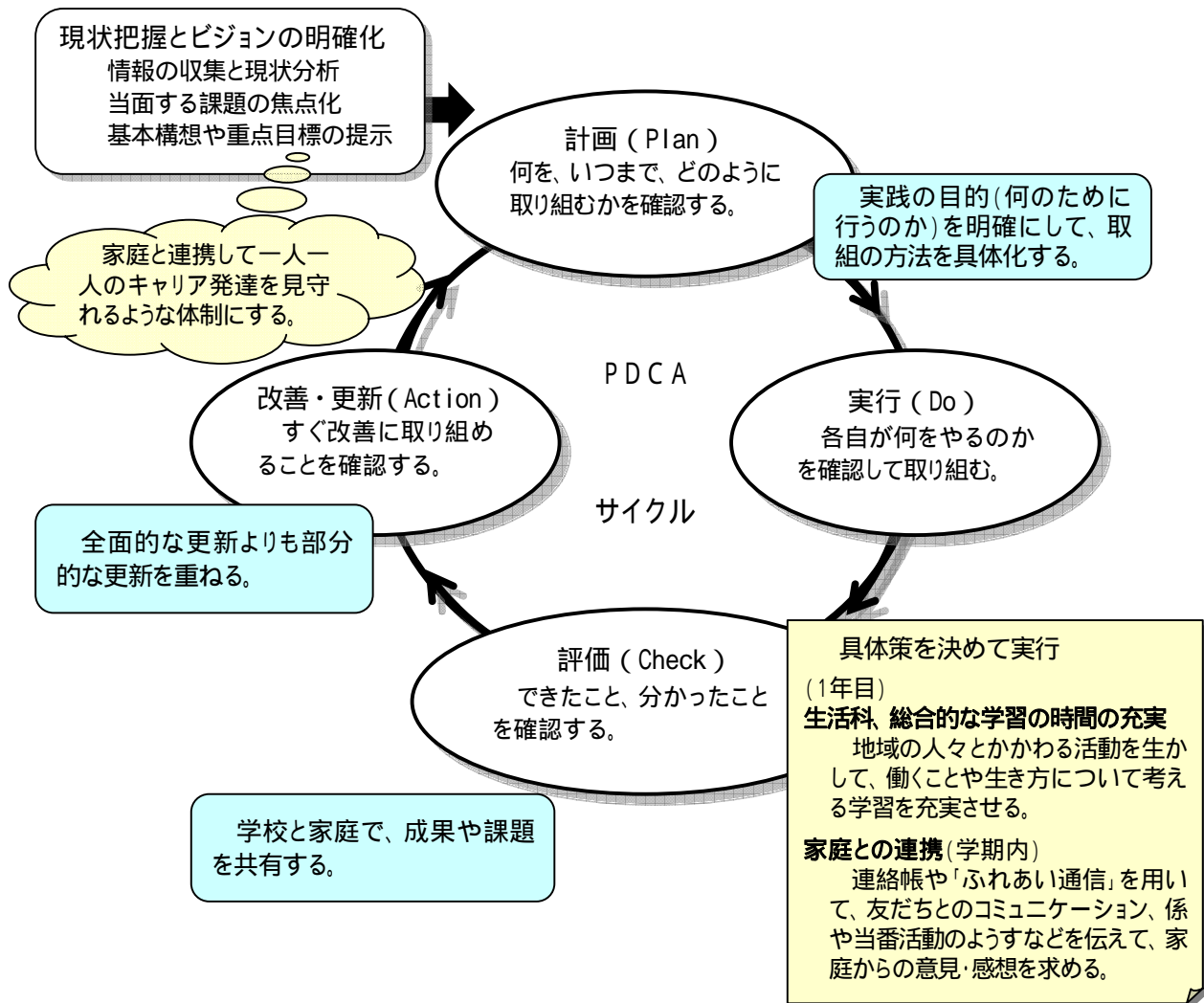
学校全体で取り組むための仕組みが機能するよう、学校の実情に合わせて、推進スケジュールや校内体制を整備する。

## 解説8 キャリア教育の組織的な推進

地域の人々とかかわる体験的な活動や生き方に関する指導など、すでに学校はキャリア教育に関わる実践やノウハウをたくさんもっています。また、小学校は中学校や高校よりも保護者や地域の人々にとって身近な存在であり、連携や協力が得やすいと考えられます。

キャリア教育を組織的に推進するためには、このような人的、知的財産や強みを最大限に生かす、仕組みづくりがポイントとなります。いわゆるPDCAサイクルを生かした実践・評価を導入することが有効であると考えられます。

イメージ図 PDCAサイクルを生かした実践・評価



Step 1

自校の現状把握やビジョンの構想をテーマに、校内研修やミーティングを行って、キャリア教育についての理解を深める。

これまでの重点目標や努力点と関連付けて展開しましょう。

まず、今年度やるべきことを決めよう。

子どもたちが、活動のめあてや成果をもっと意識できるような工夫が必要ですね。

PTAや地域の企業の協力が得られるように説明を工夫しよう。

PDCAの一連のサイクルを機能させるためには、その大前提として校内コンセンサスの醸成が欠かせません。

効率的なミーティングを心がけましょう。

新しいことを始めるという感覚は捨て、自分と仲間の実践を共有するという意識をもちましょう。

ポイント

自分だけでがんばるよりも、連携や協働体制を作り上げると長続きます。

Step 2

学校の実情に合わせて推進チームを編成し、自校のキャリア教育推進のビジョンを明確にする。

現状把握 (Research)

現状や内外環境を分析して、現在自分たちがもっている教育的な財産やノウハウを最大限に生かそうとすることが大切です。リサーチが課題の指摘に終わらないようにします。

(A小学校の例)

まず、これまでの実践で優れているところを見つけましょう。

キーワード:

「学ぶこと」と「働くこと」、「生きること」  
とのつながり  
家庭・地域との連携  
経験の積み重ね  
指導と評価の積み重ね

これまでも生活科や総合的な学習の時間を中核にして「地域の人々とかかわる学習」を進めてきました。育てたい能力・態度を具体的にイメージし、継続して指導に当たる姿勢は弱かったかもしれません。

地域の信頼と協力

学級活動や道徳の記録や提出物もたくさんあります。ただし、担任が変わると、指導と評価の引き継ぎが曖昧になりがちだったので、心のノートを継続して活用する姿勢づくりのチャンスですね。

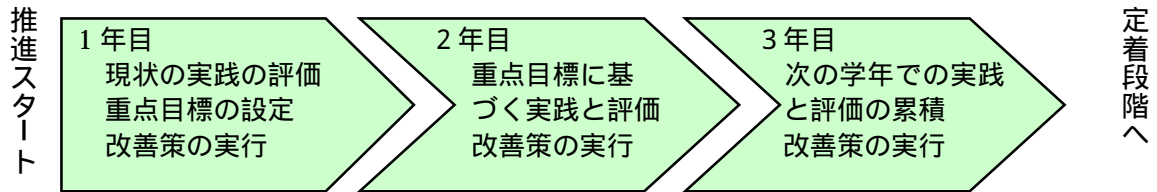
家庭の信頼と協力



### 基本構想や重点目標の策定

自校のキャリア教育推進のビジョンを明確にして、取組の期間、重点目標や進め方を明らかにします。

(取組の期間・重点目標設定及び推進の考え方の例〔3か年〕)



(重点目標設定の考え方の例)

#### 教科や領域のねらいを再確認する視点

〔例〕

発展教材の指導法を工夫して、学びとその応用の世界が、小・中・高、実社会へと広がっていくことに気付かせる。  
特別活動は、話し合いによる調整と、協力して活動することを重視する。

+

#### 子どもの成長を的確にとらえる視点

生活科、総合的な学習の時間では、児童が、伝え合う力やコミュニケーション能力をできるだけ駆使して活動に取り組むように、指導と評価の改善に取り組む。

+

#### 専門性の向上・学校経営の視点

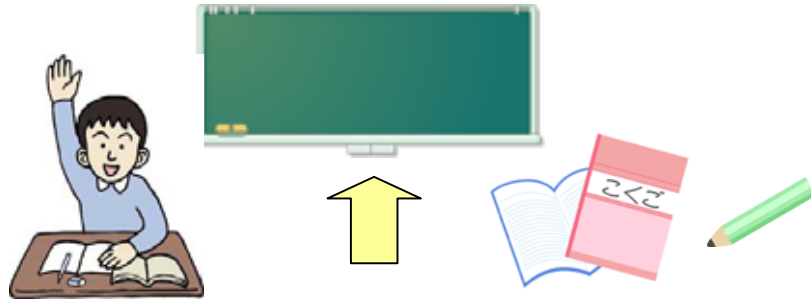
教育活動を充実させるために校内研修や教職員の話し合いの機能を高めたい。  
先進的・先導的な研究開発に取り組み、魅力ある授業を創り上げたい。  
家庭、地域社会に、本校の教育内容のよさが分かるように説明したい。

#### ここがポイント！

キャリア教育を導入する段階では、人間関係形成能力の育成に着目することが重要です。この例では、実践的なコミュニケーション能力を育成するために、対話や話し合いの機会を積極的に設けて指導に当たるという方針を明確にしています。さらに、教育活動の内容や指導の充実させるために校内研修の機能を高めることや、学校の取組を保護者や地域住民に効果的に伝えることなど、重点を置いて取り組もうとすることを提案しています。

目指す子ども像

夢や目標をもち、人とかがわりながら学び、自分を拓く子  
自立意識の向上、社会性の育成



社会の中で生きる力の育成

将来や生き方について考え、主体的に選択・決定をするための意欲や能力・態度を育てる。

“仲間と学び合い、自他のよさに気付く”

友達とともに学ぶ機会や活動を充実させ、自分自身や生活への気付きを促す。

“地域の中で現実社会にふれる”

様々な体験を通して、地域社会の「ひと」、「もの」、「情報」にふれるようにする。

人と学ぶ力を高める

- ・基礎基本の確認と活用
- ・「聞く力」「説明する力」の育成
- ・学習評価の工夫改善

人と関わる力を高める

- ・あいさつ、対話の重視
- ・学年間、地域との交流
- ・読書活動の充実
- ・「言葉と心」の資料作成

人と行動する力を高める

- ・体験的活動の重視
- ・他者と関わる体験と自信の積み重ね
- ・マナー規範意識の向上

指導の基盤づくりに取り組む

授業公開や授業研究会を行って、授業力・指導力を向上させる。

学校評価によって、教育活動の成果を明らかにして、わかりやすく家庭や地域に伝える。

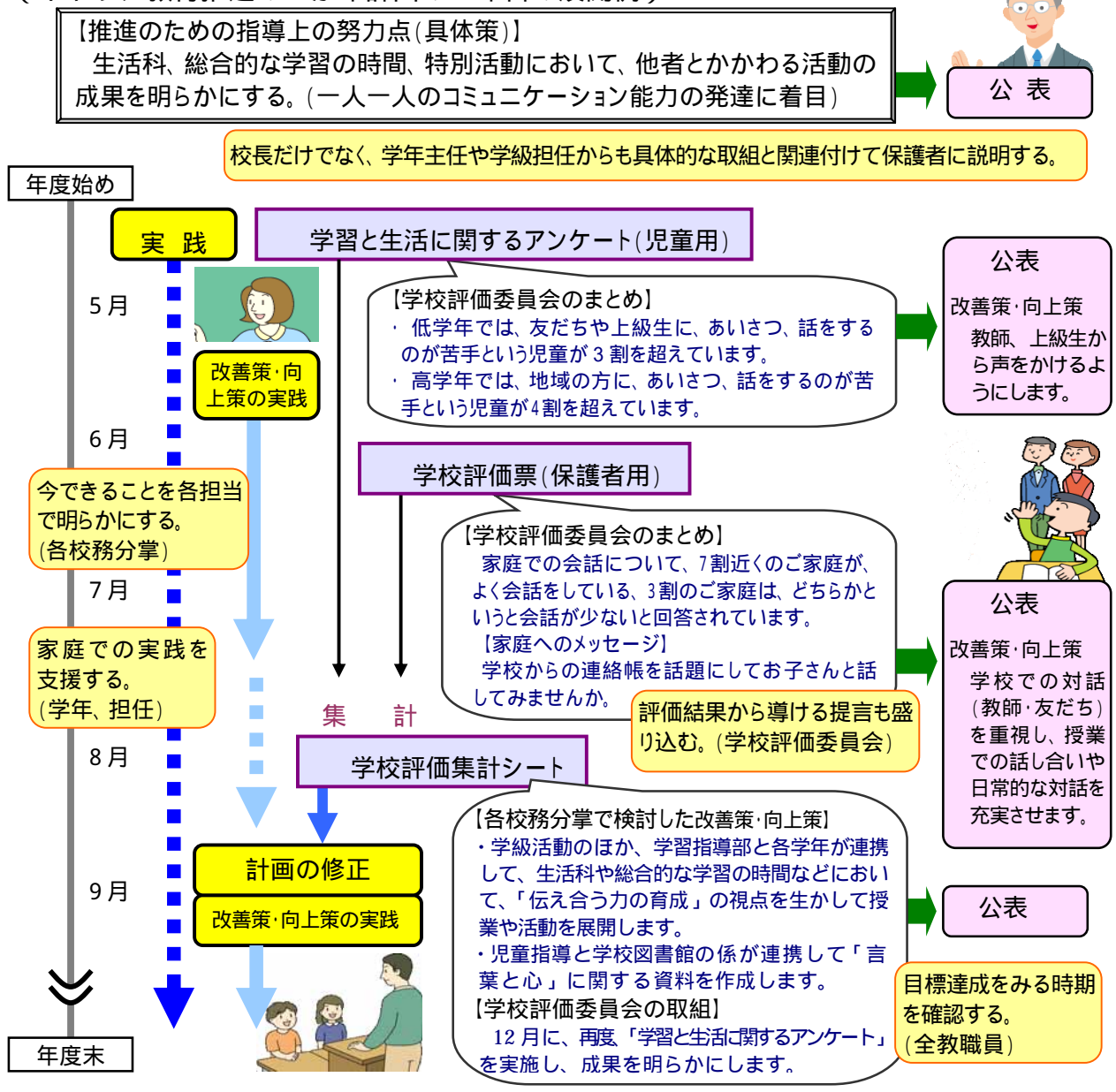
具体的な目標を設定して、着実に成果を上げられる効率的な学校経営に取り組む。



**Step 3** 学校全体で取り組むための仕組みが機能するよう、学校の実情に合わせて、推進スケジュールや校内体制を整備する。

推進の期間を決めて見通しをもって実践します。その上で、今年度取り組むべきこと、今学期取り組むべきことなど、スモールステップを重ねて推進していきます。

(キャリア教育推進の3か年計画の1年目の展開例)



**ここがポイント!**

- ・ 学校評価システムと関連付けて、実践と評価の流れをつくります。
- ・ 小さなことに取り組んでいるだけでは成果が出ないように思いがちですが、学校と家庭の双方の取組について理解し、成果を確認していくことで、実践の手応えが実感できるようになります。

## Q9

キャリア教育の計画を作成する場合、どのように立案すればよいのですか？

A 9

各学校では、各教科の指導計画をはじめ様々な計画が作成されています。そうした計画や実践をキャリア教育の視点で見直し、内容や方法について検討したり学年間の調整を図ったりして、学校全体としての取組が分かるようにします。

学校の実情に合わせた無理のない方法で進めるようにします。

ある教科や領域に絞って整理することから始め実践しながら教育活動全体に拡大していくという方法も含め、柔軟に考えるとよいでしょう。

### 計画立案のためのポイント

各学校で定めた目標・内容(育てる力)とキャリア教育で求めている力(例えば「4能力領域」と)の関連を整理する。

キャリア教育で求められる力が児童にどの程度身に付いているか、現在の児童の実態を把握する。

発達段階や児童の実態に基づいて、キャリア教育の視点を加味しながら、各学年の目標や活動内容、指導について見直す(検討する)。

他の教育活動(教科、道徳、特別活動等)との関連や学年間のつながりについて検討し、重複または不足している箇所を明らかにする。

6年間一貫した教育課程として、効果的に教育活動が行えるよう、学校の全体計画を見直す(構想・作成する)。

## 解説9 キャリア教育の計画を立案する

学校では、個々の学級や学年を超え、全体として一貫性のある教育を実施する必要があります。計画を立てる場合には、まず、学校としてどのような方向を目指しているのかを確認します。その上で、教科や領域等で重点を置いたり関連付けたりすると効果的であると思われる内容を洗い出し、学年間の接続や系統性を考慮して計画に位置付けるなどして、6年間一貫した教育課程であることが明確になるようにしていきます。

### ● キャリア教育の計画を立案する手順の例

キャリア教育担当（教務主任や研究主任など）が、キャリア教育の基本的な考え方を説明し、自校における取組の方針（進め方・計画の構想）を提案する。

教科・領域等の部会において、各教育活動の特質と学校の実態を踏まえて、キャリア教育で育成を目指す能力・態度と各教科・領域等との関連について話し合う。

学年会の中で、教科・領域等のねらいや内容を確認し、キャリア教育と関連の深い内容を洗い出す。



### 計画の立案を通して、実践の場面や方法についての見通しをもつ

教師は、子どもたちの教育に直接携わっており、一人一人の発達の実情を十分考慮できる立場にあります。計画の作成に教職員が協力して当てることによって、児童にどのような能力・態度を育成しようとしているのか、自分が行っている教育活動は全体の中でどのような意義をもつのかということをも、より明確に意識することができます。

また、計画は1年間ですべてを整えようとするのではなく、実践しながら数年かけて整備していくことで、児童の実態や指導の状況に即した実効性の高いものになっていきます。重要なのは、計画を作成する過程で、教職員が学校全体で児童の発達を支援していくという共通の認識をもち、指導を充実させていくことです。

ここでは、総合的な学習の時間の見直しから始め、キャリア教育と関連の深い学習内容を洗い出し整理するなどして計画を作成していく場合を想定し、計画立案のポイントについて、例を示しながら解説します。



各学校で定めた目標・内容（育てる力）とキャリア教育で求めている力（例えば「4能力領域」）との関連を整理する。

### 育成を目指す力の明確化

自校の総合的な学習の時間で身に付けさせたい力と、キャリア教育に関わる能力との対応が分かるよう整理した例

| 総合的な学習の時間で身に付けさせたい力 |            | 総合的な学習の時間で身に付けさせたい力の具体的な内容             | キャリア教育に関わる能力 |        |        |        |
|---------------------|------------|----------------------------------------|--------------|--------|--------|--------|
|                     |            |                                        | 人間関係形成能力     | 情報活用能力 | 将来設計能力 | 意思決定能力 |
| 問題を解決する力            | 感じる力       | 感動する 共感する こだわる                         |              |        |        |        |
|                     | 課題を見つける    | 興味をもつ 疑問をもつ 課題を選ぶ                      |              |        |        |        |
|                     | 調べる        | 計画する 必要なものを探す                          |              |        |        |        |
|                     | 考察する       | わけを考える 関連付ける                           |              |        |        |        |
| 表現する力               | 情報をまとめる    | 表現方法を選ぶ 整理する                           |              |        |        |        |
|                     | 発表する       | 説明する                                   |              |        |        |        |
| コミュニケーションの力         | 人とかわわる     | 聞き取れる 話し合える よさに気付く 認める 思いやる 礼儀正しく振る舞える |              |        |        |        |
|                     | 相手に伝える     | 考えを言う アピールする 説得する                      |              |        |        |        |
| 自分の生き方を考える力         | 自分を見つめる    | 振り返る よさに気付く 自分の考えがどう変わったか気付く 改善点を見つける  |              |        |        |        |
|                     | 思いや願いを実現する | チャレンジする 粘り強く取り組む 学んだことを生かす 将来への希望をもつ   |              |        |        |        |

この例では、キャリア教育に関わる4能力領域の項目を横軸にとり、自校で設定している児童に身に付けさせたい力が主にどの項目と関連があるのかを確認できるようにしています。

### 身に付けさせたい力とキャリア教育の4能力領域との関連を整理する意義

関連を整理する作業を通して、キャリア教育の4能力領域への理解が深まる。

自校の総合的な学習の時間で身に付けさせたい力とキャリア教育で目指す能力・態度は深くかかわっていることがはっきりする。



発達段階や児童の実態を踏まえ、単元の目標や活動内容、指導について、各学年で検討する。

単元計画の検討(各学年)

キャリア教育の視点から、目標や学習活動、支援等について検討し、必要と思われる事項を総合的な学習の時間の単元計画に書き加えた例 下線( )で示した部分が加筆箇所

従来の目標をキャリア教育の視点でとらえ直し、育成を目指す能力・態度との関連が分かるように示しています。

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                   |       |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 5年        | 単元名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 稲を育てよう                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 4～7月                                                                              | 45 時間 |
| 単元のねらい    | <p>田の様子や稲の成長、稲作の作業や工夫について関心をもち、自分の学習問題の解決に向けて意欲的に調べ、考え、表現しようとする。(関心・意欲・態度)</p> <p>調べ方や記録の仕方を工夫しながら問題解決に必要な情報集め、田の様子や稲の生長、稲作の作業や工夫について分かったことや考えたことを分かりやすくまとめて発表することができる。(学び方)</p> <p>地域の米作りや環境に関心をもち、自分の生活とのつながりを意識しながら追究するとともに、活動を通してふれ合った人に積極的に学んだり、友達の考えや活動のよさに気付いたりすることができる。(生き方)</p>                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                   |       |
| 身に付けさせたい力 | <p>興味をもったことや疑問を出し合い、話し合う中で、自分の課題と活動の目的を明確にしていく。(コミュニケーションの力) <b>【人間関係形成能力】</b></p> <p>田の様子や稲の成長、稲作の作業や工夫について調べ、必要な情報を収集することができる。(問題を解決する力) <b>観察したり農家の人に関いたりして、【情報活用能力】</b></p> <p>カメラやビデオなどの機器も活用しながら、追究の過程がわかるように記録し、目的に応じた効果的なまとめ方や表現を工夫することができる。(表現する力) <b>【情報活用能力】</b></p> <p>地域の田や米作りにも目を向け、調査や聞き取り、体験や観察など具体的な活動を通して、米と自分とのつながりを意識した課題追究ができる。(自分の生き方を考える力) <b>【将来設計能力】</b></p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                   |       |
| 学習過程      | 予想される主な活動内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 主な支援<br>評価[育成を目指す能力・態度]                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ( )関連教科等<br>* 地域教材                                                                |       |
| つかむ(8)    | <p>昨年の田植と稲刈りの体験を振り返り、米作りについての感想や興味をカードにまとめる。</p> <p>米や田について知りたいことやチャレンジタイムでしてみたいことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲の育て方や作業を知りたい。</li> <li>・ 米の種類や産地、米を使った料理や製品にどんなものがあるか。</li> </ul>                                                                                                                                                                              | <p>体験、経験、関心から、米や田について知りたいこと、興味のあることを出し合い、それら整理することで、いろいろな視点で追究できることに気付かせる。</p> <p><b>昨年収穫した稲の観察や米の試食、写真やVTR等を参考にしながら、稲や米、田の様子や生き物について知りたいこと、米作りをする過程で調べたいことなどを見つけ、理由と併せて書いている。</b></p> <p><b>【情報活用能力】</b></p> <p>出された疑問や興味のあることを書き出し、関連する内容をまとめていくつかのテーマに分類する。児童が自分の関心や興味をもとにテーマを選択し、追究を深めたり広げたりしていく参考になるように一覧表にする。</p> | <p>* 地域の水田や用水路</p> <p>* 農家の人</p> <p>(理) 植物の発芽と生長</p> <p>(社) わたしたちのくらしを支える食糧生産</p> |       |

児童の実態を踏まえ、キャリア教育の視点を加味しながら単元のねらいや身に付けさせたい力について検討し、書き加えてあります。

キャリア教育の視点で単元の目標や活動を見直す意義

単元のねらいや育成を目指す能力・態度について確認できる。  
 育成を目指す能力・態度が明確になることで、具体的な指導や支援の手立てを講じることが可能になる。

他の教育活動（教科、道徳、特別活動等）との関連や学年間のつながりについて検討し、重複または不十分な点を明らかにする。

年間指導計画、内容の系統性の検討

学年ごとに、キャリア教育と関連の深い内容を整理した例

| 第5学年 年間指導計画 |                      |            |                                       |           |                   |
|-------------|----------------------|------------|---------------------------------------|-----------|-------------------|
| 月           | 学級活動                 | 道徳         | 教科                                    | 総合的な学習の時間 | その他の教育活動          |
| 4           | 5年生になって<br>学級目標を決めよう | 4(1)責任をもって | (社)<br>米づくりのさかんな地域<br>(国)<br>依頼・お礼の手紙 | 小ファーム     | 1年生を迎える会<br>委員会活動 |
| 5           |                      | 2(3)友の肖像画  |                                       |           | 緑化・栽培活動           |

重点を置く内容を選んで示したものです。どの教育活動を、どの時期に取り上げるかは、学校の実情によって異なりますが、キャリア教育と関連の深い内容を確認し、年間の見通しをもつ上で参考になります。この例では、地域との連携を生かしながら自己理解を深める内容を中心に取り上げています。

育成を目指す能力・態度の観点から、関連の深い学習内容を学年ごとに整理した例

|          | 身に付けさせたい力   | 低学年                                                                         |    | 中学年                            |    | 高学年                                    |    |
|----------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------|----|----------------------------------------|----|
|          |             | 1年                                                                          | 2年 | 3年                             | 4年 | 5年                                     | 6年 |
| 人間関係形成能力 | 自他の理解能力     | 友だちと仲良く遊び、助け合う                                                              |    | 自分や友だちのよいところを認め励まし合う           |    | 話し合いに積極的に参加し、友だちの意見も理解しようとする           |    |
|          | コミュニケーション能力 | 学級活動「基本的な生活習慣」<br>道徳「思いやり・親切」<br>生活科「ともだち」「大きくなったよ」                         |    | 学級活動「望ましい人間関係」<br>総合的な学習の時間    |    | 学級活動「望ましい人間関係」<br>道徳「個性の伸長・向上心」        |    |
|          |             | あいさつや返事をする<br>自分の考えをみんなの前で話す<br>1分間スピーチ<br>国語科「聞く・話す」<br>生活科「学校たんけん」「町たんけん」 |    | 自分の考えを分かりやすく話す<br>友だちと協力して取り組む |    | 異年齢集団の活動に進んで参加し、役割や責任を果たそうとする<br>児童会活動 |    |

身に付けさせたい力については、p. 74、75の表にある育成すべき能力や態度及び具体例などを参考にして検討するとよいでしょう。

この例では、育成を目指す能力と関連の深い内容を配置しています。学年間の接続や系統性を考慮することによって、発達段階に応じた教育活動の展開や指導の重点が明確になります。

キャリア教育との関連が深い内容の一覧を作成する意義

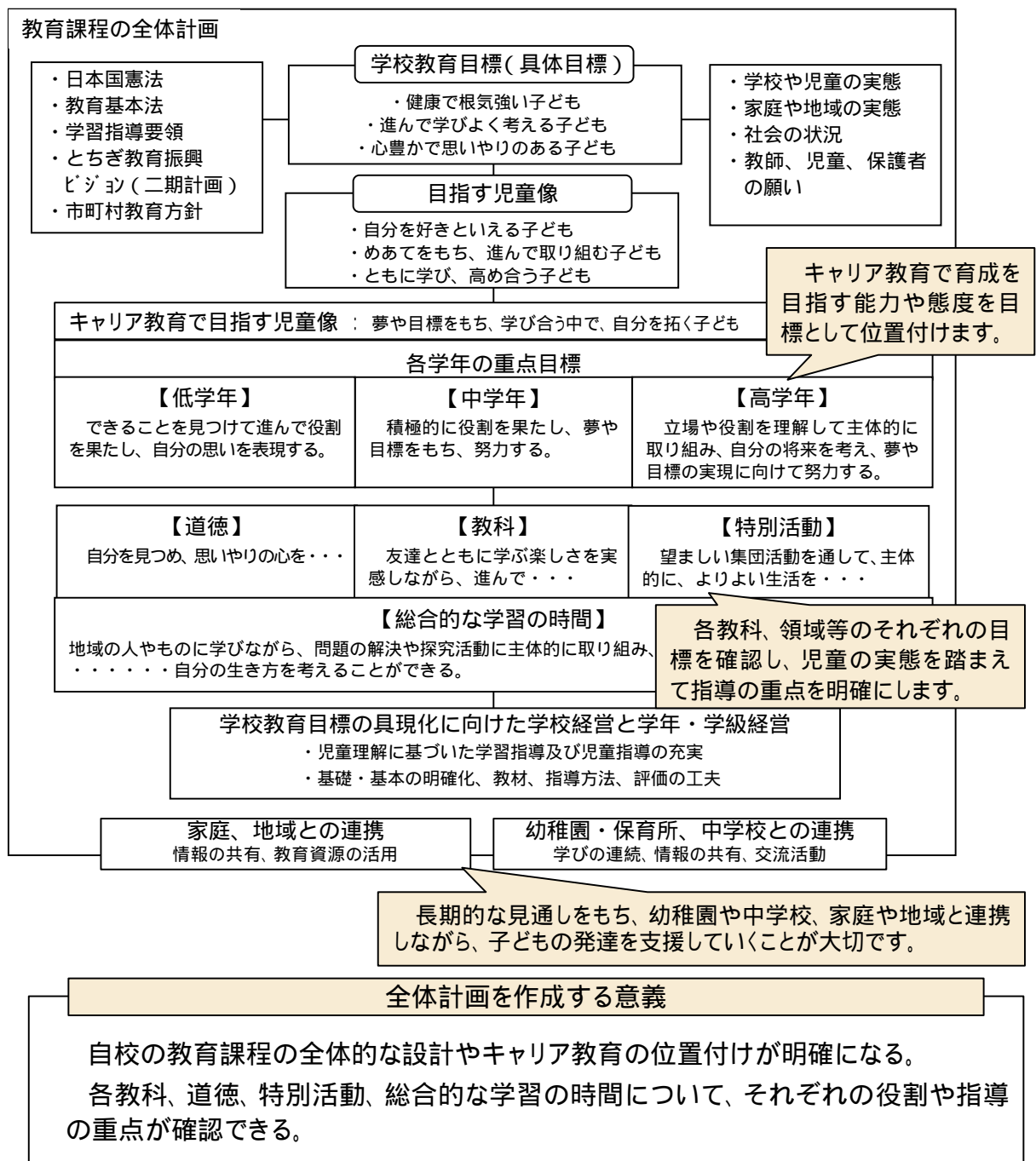
各学年で育成を目指す能力・態度、重点をおいて指導する内容が確認できる。  
どの学年でも共通に指導すべき内容や発達段階を踏まえた教育活動のねらいを意識し、全体的な見通しをもつことができる。

6年間一貫した教育課程として、効果的に教育活動が行えるよう、学校としての全体計画を構想する。

全体計画の構想

キャリア教育の全体計画を新たに作成することも考えられますが、ここでは、自校の教育課程の全体計画についてキャリア教育の視点で見直し、教科等のねらいや指導の重点が明確になるようにした例を示します。  
特に決められた様式はないので、先行事例や自校の総合的な学習の時間の全体計画などを参考にするのもよいでしょう。

キャリア教育を中核に置いて教育課程の全体計画を見直した例



# Q10

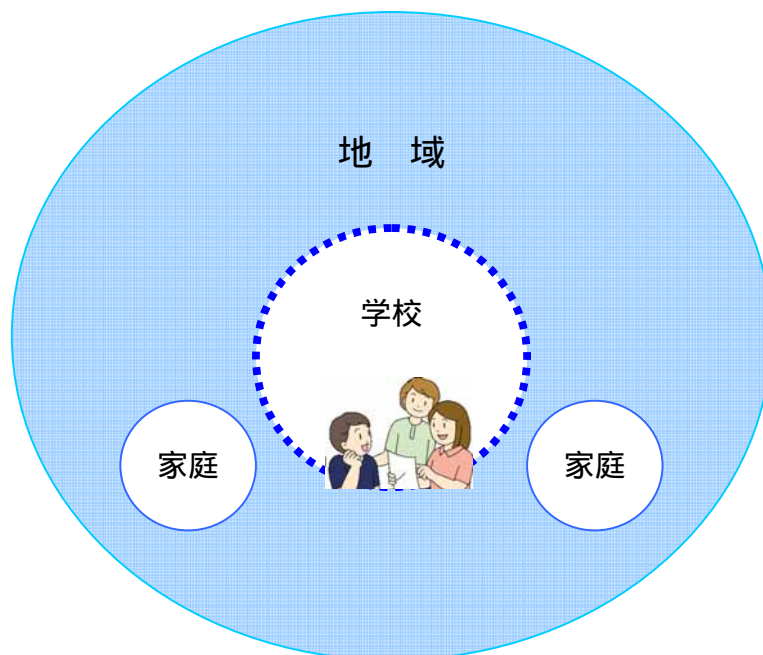
家庭や地域とどのように連携してキャリア教育に取り組んでいくとよいのですか？

A 10

「学校だけでなく地域全体で子どもを育てる社会づくりにつなげていく」という考え方に立ち、地域に関かれた学校教育を行っていくことが大切です。

学校、家庭、地域、それぞれの取組や子どもの姿について情報を共有し、双方向の意見交換や協働ができる関係を築いていくようにします。

児童が保護者や地域の大人から学ぶ場や機会を積極的に設けます。



人と情報を生かす



保護者や地域住民の協力を得ることによって、様々な職業があることを知ったり、多様な考え方や生き方に触れて自己を見つめたりする機会が増えます。各学校で既に行っている、保護者や地域住民の教育活動への参加、家庭や地域への情報提供などの方法や内容について、保護者や地域住民などの意見も聞きながら再検討し充実させていきましょう。学校、家庭、地域が連携して、児童のキャリア発達を支援していくことが大切です。

## 解説 10 家庭や地域との連携を深める

子どもたちは、場面や場所、時間や相手との関係に応じてさまざまな顔や姿を見せます。教職員、保護者、それぞれが知っている子どもの姿をつき合わせ、その子どもの等身大の姿を描くことが必要です。学校、家庭が担う役割を確認し、それぞれが責任をもって子どもの成長にかかわっていくという関係をつくり、機能させていくことが大切です。

### 家庭や地域との連携を深めるアイデア

#### 情報を共有し、理解を深める

##### 《 学校便りや学級通信、保護者会や家庭訪問、連絡帳 など 》

指導の重点や学校の取組について説明する。

日頃の学級や児童の様子、担任の考えなどを保護者に伝える。

「働くこと」や「学ぶこと」について家庭でも話す機会がもてるよう情報を提供したり働きかけたりする。

連絡帳のやりとりなどを通して、日頃から保護者とのコミュニケーションを図る。

##### 保護者や地域の人などを学校に招いて 《 参観日、学校開放 などの機会に 》

授業や活動を見て、教育内容や児童の様子を知ってもらう。

授業や活動に参加し、一緒に考えたり、経験を話したりしてもらう。

#### 大人とかかわる機会を生かす

#### 体験の場を広げる

##### 児童と教師が地域に出て 《 町たんけん、見学、栽培活動、社会体験 などを通して 》

働いている人や利用している人を観察したり、取材したりする。

一緒に活動や作業をする中で、話をしたり、教えてもらったりする。感謝の気持ちを伝える。

お礼の言葉や態度、手紙、あいさつ、清掃など



ここでは、学校の取組を家庭や地域に伝える際のポイントについて、例を示しながら解説します。これまでに発行してきた学校便りの内容を再検討し、家庭や地域との連携を深める手段として効果的に活用するための参考にしてください。



児童や参観者の感想を紹介しながら、運動会における児童の姿を通して学校の取組を伝え、教育活動についての理解を図っている例

小 学校便り 輝き No 10

小学校

平成 年 月 日

みんなで創った運動会 一人一人が輝いていました

写真  
(運動会の様子)

月 日、前日までの天候を吹き飛ばすような晴天の下、小大運動会が行われました。夏休みが明けて2週間という短い期間で運動会を迎えましたが、子どもたちの演技や競技には、それを感じさせない力強さがありました。各学年とも4月から積み上げてきた様々な力が凝縮された結果ではないかと思えます。

一人一人が輝いた 演技

練習での話の聞き方や取り組む姿勢には「うまくなりた。みんなでいい演技をしたい」という気持ちが溢れていました。休み時間にも子どもたち同士で教えあっている姿が見られ、家で何度も練習してくる子も多かったようです。一つのことをしっかりやり遂げようとする姿勢や、みんなで支えあい、よりよいものを創っていくという姿が随所に見られました。

6年生が中心になって  
6年生の働きは、運動会を支える大きな力です。様々な役割を担い、知恵と力を出し合って準備を進め、当日も、低学年の面倒を見て一緒に頑張って応援したり、やさしく声をかけたりしていました。また、日頃から委員会などで活動をともにしている5年生との協力もよく、お互いに声をかけ合い「中心になって運動会を成功させるんだ」という一つの目的に向かう姿が輝いていました。

・・・児童の感想から・・・

運動会では、布を使った演技をしました。休み時間も友達と練習して、「いい演技をするぞ」とがんばりました。布を大きく回すところや動きを合わせるのがむずしかったですけれど、一生けんめい練習して、本番で成功しました。うれしかったです。  
4年

私は、初めて用具係になったけれど、自分の仕事をしっかりとできたと思います。縄やカラーコーンなどを素早く運んで準備したり片付けたりするのは大変でした。でも、みんなにがんばってもらいたいと思って運ぶと、自分の気持ちが伝わったような気がしてうれしかったです。  
5年

たてわりのおみなとは、練習などを通してとても仲良くなれました。ふつうに会話ができるようになり、1年生も気軽に話しかけてくれます。5年生とも、係の仕事をしながら話をしたりして協力して活動できました。来年の運動会でも、みんなにがんばってもらいたいです。  
6年

保護者や地域の方々の声

短い準備期間で、子どもたちがあれだけのものを完成させたことは驚きでした。上級生がしっかり活動している姿を見て下級生は成長していくと思うので、5・6年生の動きがてきぱきしていいのは、これからの小で大切なことだと思います。  
4年生 保護者

先生方やお手伝いの保護者の皆様の連携やきちんとした準備で、スムーズに運動会が進行したことは本当にすばらしいと思いました。子どもたちも、お互いに助け合い、自分が今しなければならぬことを理解して、自ら行動できていたと思います。すがすがしい気落ちになりました。ありがとうございました。  
地域ボランティア

保護者や地域の方々に支えられて

「みんなで創る運動会」ということで、保護者や地域の皆様にも多大なご協力をいただきました。子どもたちへの温かい声援、競技への参加、そして、準備や片づけまで、たくさんの方々にご協力いただき、本当にありがとうございました。今年も、保護者や地域の方々と一緒に運動会を創ることができたのではないかと思います。これからも、小学校が地域に開かれた学校として様々な教育活動を行っていきたくと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

子どもたちの頑張りに対する多くのお褒めの言葉をいただく中で、ゴールや退場門付近でのビデオ撮影、参観者のマナー等の問題点の指摘もありました。また、「テントの位置を移し、保護者席を正面にしてほしい。」「ベランダを保護者席として開放してほしい。」等のご要望をいただきました。しかし、現状では、運営面や安全面、警備上の問題を考慮すると難しいと考えます。「運動会の時期が早すぎるのでは」というご意見や参観者のマナー等の問題につきましては、来年度の課題として検討してまいります。

活動や役割の経験を通して、新たな人間関係を築いたり力を発揮したりしている児童の姿をとらえて伝えています。

保護者の感想と共に、読み聞かせや地域安全ボランティアなど、普段から協力いただいている方の視点も大切にしています。

学校、家庭、地域が一体となって取り組む姿勢を示し、活動の様子や児童の姿を報告することが、学校教育への理解につながります。

保護者の意見や要望に対しては、現状を説明し、今後の取組や改善の方針を示します。

ポイント

児童の姿や成長を伝える。(活動の様子や児童の感想、発揮された力や学んだこと) 評価を行い、今後の取組や改善の方針を示す。(成果、課題、方策)



学校評価アンケートによる保護者や地域住民の意見等を踏まえて、学校としての今後の取組の重点を伝えている例

小 学校便り 輝き

No 11

小学校 平成 年 月 日

よりよい学校づくりを進めるために 学校評価の結果を踏まえて -

7月に実施した「学校評価」アンケートにご協力いただきありがとうございました。アンケートの回収率は95%を超えました。多くの保護者の方々の「思い」が寄せられた今回の結果をしっかりと受け止め、よりよい学校づくりに努めてまいります。

今月は、集計結果及び今後重点的に取り組んでいくことについてお知らせします。今後も学校評価を継続して実施してまいりますので、形式や内容等について改善を加えたいほうがよい点がありましたら、ぜひご意見をお寄せください。

《集計結果》 A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない  
D そう思わない わからない (単位%)

| 内容                       | A  | B  | C | D |
|--------------------------|----|----|---|---|
| 1 お子さんは学校へ行くのを楽しみにしていますか | 96 | 3  | 1 | 0 |
| 2 お子さんは家族や近所の人に進んで挨拶しますか | 84 | 12 | 2 | 0 |
| 3 お子さんは家でも学習をしていますか      | 88 | 7  | 4 | 1 |

学校評価の結果を踏まえて、改善すべきことを教職員で話し合い、次の3点について重点を置いて取り組むことになりました。

今後の方針についてご理解いただき、今後もご協力をよろしくお願いします。

今後の取組の重点

自分の考えを表現する力をつける

授業や生活の様々な場面において、コミュニケーション能力の育成に力を入れています。まず二人組で対話をする経験を十分に積み、話を聞いてもらう心地よさや、相手と話すことの楽しさを実感させ、「安心して話せる関係をつくる」ことを大切にしています。今後さらに、話し方のスキルとあわせて、「あなたは どう思う」「どうして そう思うの」「どうするの」と子どもに問いかけるなどして、自分の考えを明らかにすることを働きかけていきます。

相手とのかかわりを考え、行動できるようにする

本校では、「誰もが安心して過ごせる学校」を目標に、「協力・感動・集団」の視点を大切に教育活動に取り組んでいます。これまでの取組を継続していくとともに、子どもたち一人一人に、「どのようなかかわり方をしてもらとうれしいか」を自分に置き換えて考えさせたり、相手にも自分にもよりよい選択をしようとする場を多く経験させたりして、多様な他者と適切にかかわる力の育成に努めます。

子どもをよく知る

評価結果を受け、「児童とのかかわり」について職員で話し合いました。子ども一人一人に気を配り、理解に努め、かかわり続けていくことの大切さを再認識しました。保護者の皆様にも、家庭で学校のことを話題にするなどして、親子で話す場や時間を大切にいただければと思います。学校、家庭、地域、それぞれの場での子どもの姿を知り、連携を密にして、子どもたちの成長を支援していきたいと考えています。



学校評価アンケートに寄せられた保護者の意見や評価結果を踏まえて、これまでの取組を伝え、さらに充実・改善を図ることを、具体的な方針と併せて示しています。

取組の成果と課題については、こうした資料を配布したりホームページで発信したりするとともに、学年や学級の実態や具体策をまとめ、保護者会などの機会に担任が説明を加えることが大切です。

ポイント

学校の教育方針や教育活動、取組の状況や児童の様子を知らせる。

学年や学級の児童の様子、指導の重点や具体策などについて、保護者会等で説明する。

連携のためには、教職員、保護者、地域住民が、「子どもの発達・成長を支援する」という目的を共有し、相互理解を図っていくことが重要です。保護者や地域住民が、実際に子どもを目の前にして学校教育活動にかかわることによって、「学校に協力する」という意識から、次第に「参画する」という意識に高まっていくものと思われます。地域の実態に合う連携を模索し、機能させていくことが大切です。

## 地域の大人が子どもにかかわる機会を設ける

家族や教職員以外の大人に指導されたり、コミュニケーションをとりながら一緒に活動したりする経験は、社会性を育む上でとても重要です。多様な人々とかかわることによって、自分と異なる見方や考え方をしている人がいることに気づき、そのような人たちとも一緒に活動する楽しさやよさを味わうことができます。具体的な活動を通して、自分の生活を支えている人に目を向け、自分との関係について考えたり、適切な接し方を学んだりするよい機会でもあります。

総合的な学習の時間や特別活動、各教科、あるいは、文化祭やふるさと学級など、様々な場面で既に行っている活動の目的と成果を確認し、児童にとってどのような意味があるのかを十分に吟味して、効果的に実施しましょう。社会の中で様々な経験と見識を培ってきた大人たちと直接かかわることによって、子どもたちの学びはより豊かなものになっていきます。



## キャリア教育に関する資料

ここでは、本冊子作成のために、引用または参考にした資料について、コメントを付記して紹介します。あわせて、「とちぎ教育振興ビジョン(二期計画)」より、キャリア教育の推進に係る県の施策の概要を紹介します。

### 1 『キャリアの推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』

文部科学省(平成16年1月)

文部科学省が、初等中等教育における「キャリア教育」を推進していくための基本的な方向などについて検討して、学校や教育関係者などにおける「キャリア教育」推進の指針となる提言をまとめたものです。

(本文) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002.htm)

(骨子) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801.htm)

(リーフレット) [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/04111901.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/04111901.htm)

### 2 『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引

- 児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために - 』

文部科学省(平成18年11月)

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」の内容を、より分かりやすく解説したものです。学校におけるキャリア教育の理解を図るために、キャリア教育の意義、学校における推進の手順、各学校段階におけるキャリア教育の進め方などについて示しています。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/06122006.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/06122006.htm)

参照 文部科学省 > 進路指導・キャリア教育 [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm)

### 3 『キャリア教育入門 その理論と実践のために』

三村隆男:著 出版社:実業之日本社(平成16年9月)

キャリア教育の歴史、理論的背景そして進路指導とのかかわり、さらには学校現場でのキャリア教育の立ち上げ方から具体的な実践事例、授業展開例などを掲載しています。

### 4 『図解 はじめる小学校キャリア教育』

三村隆男:編 出版社:実業之日本社(平成16年11月)

小学校段階のキャリア教育を実践するための手引きです。各校で教科、道徳、特活、生活科・総合などを通して地道に取り組まれている実践をもとに、子どもたちの能力や態度を少しずつ引き出し、生きる姿勢を育む考え方が具体的に紹介されています。

### 5 『小学校・キャリア教育のカリキュラムと展開案』

児島邦宏・三村隆男:編 出版社:明治図書(2006年3月)

教科・領域を軸にした小学校におけるキャリア教育のカリキュラムを具体化し、国語、理科、道徳、特別活動、生活科・総合的な学習の時間、それぞれについてカリキュラム及び授業展開案例が掲載されています。

## 第2部 各論

### 第1章 自立する力と豊かな心をはぐくむ学校教育の実現

#### 自立意欲と社会性の育成

若者の就労形態をみると、フリーターやニートの増加、高水準で推移する早期離職率等の問題があり、適切な対応が喫緊の課題となっています。その原因としては、求人の減少や求職と求人の不適合の拡大、雇用環境の変化などがある一方、若者の職業に対する意識や価値観の多様化、勤労観、職業観の未成熟、進路決定を先送りする傾向などや、人間関係を築く力などの社会性が育っていないことも、原因として指摘されています。

このようなことから、学校教育においては、児童生徒一人一人に、発達段階に応じた望ましい勤労観、職業観を育てるキャリア教育の推進が求められています。さらに、キャリア教育の視点から主体的に進路を選択決定する能力や態度を育成する進路指導の充実も必要です。

また、社会性の育成を図るため、社会体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動や、学級及び異年齢の集団活動を通して、友達や様々な立場の人々と積極的にかかわる体験を充実させます。特に特別活動では、目標に「集団の一員としての自覚を深め」「協力してよりよい生活を築こうとする」とあるように、社会性の育成をねらいとしています。考え方や性格、体力や能力が異なる子どもたちが折り合いをつけながら共に生活する、「学校ならではの学びの体験」を重視していきます。

#### (1) キャリア教育の充実

社会人・職業人として自立に必要な意欲や態度、能力を育成します

児童生徒の発達段階に応じ、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間において、勤労意欲の醸成や、社会人・職業人として自立していくために必要な能力や態度を育成します。

さらに、学んだ知識をより確かなものとするために、職業に関して専門的知識や技能をもつ民間人等を活用した授業、奉仕活動や職場体験などの実体験の機会を拡充します。

また、各学校が組織的・系統的にキャリア教育を推進できるようにするため、小・中・高校の発達段階に応じた一貫性のある学習プログラムを開発し、普及していきます。

#### [ 推進の柱となる事業 ]

- ・ 地域の人材活用の推進
- ・ 職場体験の推進
- ・ ジュニア・キャリアアドバイザー事業
- ・ 勤労観・職業観を育成する学習プログラムの開発・普及

## (2) 進路指導の充実

自分の意志と責任で、進路を選択・決定する能力や態度を身に付けさせます

各教科における学習指導や総合的な学習の時間、特別活動などの教育活動全体を通じて、生徒が自らの在り方生き方を考え、主体的に進路を選択し、その目標に向かって努力していけるよう、各学校においては、本人や保護者に対するガイダンス機能の充実を図るとともに、職場体験の機会の確保や企業訪問、上級学校訪問などを実施し、生徒の進路意識を啓発します。

また、教職員全体の共通理解と協力体制により、計画的・組織的に進路指導を行うだけでなく、中・高の連携を密にし、連続性・一貫性のある進路指導の充実を目指します。

### [ 推進の柱となる事業 ]

- ・中・高進路指導連絡協議会
- ・県立高校ガイダンス事業
- ・進路指導連絡協議会

## (3) 社会性を育てる指導の充実

社会生活を営む上での基礎を身に付けさせます

社会性は集団生活の中で育てられます。したがって、集団活動の場で自分の役割や責任を果たす、互いのよさを認め合う、他者と協力して集団に関わる諸問題を話し合う、集団のためになる最良の解決策について思考判断するといった活動を重視します。特に、学級活動（ホームルーム活動）などにおける集団決定の場面や、学校行事や生徒会活動などにおける、集団（同学年・異学年）内での役割や責任を果たす場面の指導を大切にし、一人一人が集団に所属することのよさを実感できるようにします。

また、社会体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動の一層の充実を図り、あいさつや礼儀作法など社会の一員としての基本となることや共に生きる心、感謝の心などを育むとともに、主体的に自己の在り方や生き方を見つめさせます。

さらに、学校教育の様々な機会を通して、お互いの考えや気持ちを伝え合う力を高め、生活上における問題を言葉で解決する力を育てるとともに、児童生徒が相互理解や望ましい人間関係づくりを進めるためのカリキュラム等の在り方について調査研究を行い、その研究の成果を県内全域に普及・啓発します。

### [ 推進の柱となる事業 ]

- ・伝え合う力を養う調査研究
- ・キャリア教育実践プロジェクト事業（キャリア・スタート・ウィーク）

勤労観や職業観を育む学習プログラムの枠組み(例) - 職業的(進路)発達にかかわる諸能力の育成の視点から

国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の勤労観や職業観を育む教育の推進について(調査研究報告書・平成14年11月)」より

|                                                                                         |                                                             |                                                                            | 小 学 校                                                                                          |                                                                     |                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                         |                                                             |                                                                            | 低学年                                                                                            | 中学年                                                                 | 高学年                                                                                    |
| 職業的(進路)発達課題                                                                             |                                                             |                                                                            | 進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期                                                                            |                                                                     |                                                                                        |
| 職業的(進路)発達課題(小～高等学校段階)<br>各発達段階において達成しておくべき課題を進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面からとらえたもの |                                                             |                                                                            | 自己及び他者への積極的関心の形成・発展<br>・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上<br>・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得<br>・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 |                                                                     |                                                                                        |
| 職業的(進路)発達に関わる能力                                                                         |                                                             |                                                                            | 職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度                                                           |                                                                     |                                                                                        |
| 領域                                                                                      | 領域説明                                                        | 能力説明                                                                       |                                                                                                |                                                                     |                                                                                        |
| 人間関係形成能力                                                                                | 他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。 | 【自他の理解能力】<br>自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力                  | 自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。<br>友達と仲良く遊び、助け合う。<br>お世話になった人などに感謝し親切にする。                                | 自分のよいところを見付ける。<br>友達のよいところを認め、励まし合う。<br>自分の生活を支えている人に感謝する。          | 自分の長所や欠点に気付き、自分らしさを発揮する。<br>話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。                          |
|                                                                                         |                                                             | 【コミュニケーション能力】<br>多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力        | あいさつや返事をする。<br>「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。<br>自分の考えをみんなの前で話す。                                         | 自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。<br>友達の気持ちや考えを理解しようとする。<br>友達と協力して、学習や活動に取り組む。 | 思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。<br><b>異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。</b>              |
| 情報活用能力                                                                                  | 学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。     | 【情報収集・探索能力】<br>進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力  | 身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。                                                                       | いろいろな職業や生き方があることが分かる。<br>分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。                | 身近な産業・産業の様子やその変化が分かる。<br><b>自分に必要な情報を探す。</b><br><br>気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。 |
|                                                                                         |                                                             | 【職業理解能力】<br>様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力         | 係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。                                                                      | 係や当番活動に積極的に関わる。<br>働くことの楽しさが分かる。                                    | 施設・職場見学等を通じ、働くことの大切さや苦勞が分かる。<br><b>学んだり体験したりしたこと、生活や職業との関連を考える。</b>                    |
| 将来設計能力                                                                                  | 夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。           | 【役割把握・認識能力】<br>生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力       | 家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。                                                                    | 互いの役割や役割分担の必要性が分かる。<br><b>日常生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。</b>               | 社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。<br><b>仕事における役割の関連性や変化に気付く。</b>                           |
|                                                                                         |                                                             | 【計画実行能力】<br>目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力         | 作業の準備や片付けをする。<br>決められた時間やきまりを守ろうとする。                                                           | 将来の夢や希望を持つ。<br>計画づくりの必要性に気付き、作業の手順が分かる。<br>学習等の計画を立てる。              | 将来のことを考える大切さが分かる。<br><b>憧れとする職業を持ち、今、しなければならぬことを考える。</b>                               |
| 意思決定能力                                                                                  | 自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。         | 【選択能力】<br>様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力       | 自分の好きなもの、大切なものを持つ。<br>学校でしてよいことと悪いことがあることが分かる。                                                 | 自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。<br>してはいけないことが分かり、自制する。              | 係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。<br>教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。                                       |
|                                                                                         |                                                             | 【課題解決能力】<br>意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力 | 自分のことは自分で行おうとする。                                                                               | 自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。<br><b>自分の力で課題を解決しようとする。</b>            | 生活や学習上の課題を見付け、自分の力で解決しようとする。<br><b>将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。</b>                     |



\* 太字は、「勤労観や職業観の育成」との関連が強いものを示す

|                                                                                         |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                             | 中 学 校                                                                                                                                                                         | 高 等 学 校                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 職業的(進路)発達課題                                                                             |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                             | 現実的探索と暫定的選択の時期                                                                                                                                                                | 現実的探索・試行と社会的移行準備の時期                                                                                                                         |
| 職業的(進路)発達課題(小～高等学校段階)<br>各発達段階において達成しておくべき課題を進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面からとらえたもの |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的自己理解と自己有用感の獲得</li> <li>興味・関心等に基づく勤労観や職業観の形成</li> <li>進路計画の立案と暫定的選択</li> <li>生き方や進路に関する現実的探索</li> </ul>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>自己理解の深化と自己受容</li> <li>選択基準としての勤労観や職業観の確立</li> <li>将来設計の立案と社会的移行の準備</li> <li>進路の現実吟味と試行的参加</li> </ul> |
| 職業的(進路)発達に関わる能力                                                                         |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                             | 職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度                                                                                                                                          |                                                                                                                                             |
| 領域                                                                                      | 領域説明                                                                                                                                                    | 能力説明                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                             |
| 人間関係形成能力                                                                                | <p>他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。</p> <p><b>【自他の理解能力】</b><br/>自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切に行動していく能力</p>               | <p>自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。</p> <p>自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。</p> <p>自分の悩みを話せる人を持つ。</p>                                                                                  | <p>自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。</p> <p>他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。</p> <p>互いに支え合い分かり合える友人を得る。</p>                                                                      |                                                                                                                                             |
|                                                                                         | <p>多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力</p> <p><b>【コミュニケーション能力】</b></p>                                                                   | <p>他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。</p> <p>人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。</p> <p>リーダーとフォロワーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。</p> <p>新しい環境や人間関係に適應する。</p>                        | <p>自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。</p> <p>異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。</p> <p>リーダー・フォロアシップを發揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。</p> <p>新しい環境や人間関係を生かす。</p>                    |                                                                                                                                             |
| 情報活用能力                                                                                  | <p>学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。</p> <p><b>【情報収集・探索能力】</b><br/>進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力</p> | <p>産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のありましを理解する。</p> <p>上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。</p> <p>生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。</p> <p>必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。</p> | <p>卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。</p> <p>就職後の学習の機会や上級学校卒業後の就職等に関する情報を探索する。</p> <p>職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。</p> <p>調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。</p> |                                                                                                                                             |
|                                                                                         | <p>様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力</p> <p><b>【職業理解能力】</b></p>                                                                    | <p>将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。</p> <p>体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。</p> <p>係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。</p>                                                      | <p>就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。</p> <p>社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。</p> <p>多様な勤労観や職業観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。</p>                                               |                                                                                                                                             |
| 将来設計能力                                                                                  | <p>夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。</p> <p><b>【役割把握・認識能力】</b><br/>生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力</p>            | <p>自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。</p> <p>日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。</p> <p>様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。</p>                                                        | <p>学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。</p> <p>ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。</p> <p>将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。</p>                                                           |                                                                                                                                             |
|                                                                                         | <p>目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力</p> <p><b>【計画実行能力】</b></p>                                                                    | <p>将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。</p> <p>進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。</p> <p>将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。</p>                                       | <p>生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。</p> <p>職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。</p> <p>将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。</p>                                                |                                                                                                                                             |
| 意思決定能力                                                                                  | <p>自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。</p> <p><b>【選択能力】</b><br/>様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力</p>          | <p>自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。</p> <p>選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。</p> <p>教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。</p>                                                | <p>選択の基準となる自分なりの価値観、勤労観や職業観を持つ。</p> <p>多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。</p> <p>進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。</p> <p>選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。</p>                   |                                                                                                                                             |
|                                                                                         | <p>意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適應するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力</p> <p><b>【課題解決能力】</b></p>                                                            | <p>学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かす。</p> <p>よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出し出していくことの大切さを理解する。</p> <p>課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくこととする。</p>                                               | <p>将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。</p> <p>自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。</p> <p>理想と現実との葛藤経験等を通して、様々な困難を克服するスキルを身に付ける。</p>                                         |                                                                                                                                             |

キャリア教育に関する参考資料（小学校編）  
「生きる力」を育むキャリア教育  
- 小学校における理解と実践のためのQ & A -

発行 平成19年3月  
栃木県総合教育センター 研究調査部  
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070  
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303  
URL <http://www.tochigi-c.ed.jp>